

令和 4 年度

水産多面的機能発揮対策活動報告書

令和 5 年 3 月

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会

目次

I.	はじめに	1
II.	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の活動	2
(1)	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の役割	2
(2)	事業経過報告	2
III.	福井県内の活動組織	3
(1)	県内活動組織一覧（概要）	3
(2)	各活動組織の紹介	4
①	安島マリンプロジェクト（坂井市）	4
②	崎生態系保全活動グループ（坂井市）	5
③	梶生態系保全活動グループ（坂井市）	6
④	米ヶ脇里海を守る会（坂井市）	7
⑤	浜地里海を育てる会（坂井市）	8
⑥	三国沖の海を見守る会（坂井市）	9
⑦	勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	10
⑧	日野川環境整備協議会（越前市）	11
⑨	敦賀河川を守る会（敦賀市）	12
⑩	魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）	13
⑪	小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）	14
⑫	南川ラインレスキュ一隊（小浜市）	15
⑬	おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）	16
⑭	若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	17
IV.	令和4年度活動事例報告	18
①	安島マリンプロジェクト（坂井市）	18
②	崎生態系保全活動グループ（坂井市）	22
③	梶生態系保全活動グループ（坂井市）	29
④	米ヶ脇里海を守る会（坂井市）	35
⑤	浜地里海を育てる会（坂井市）	39
⑥	三国沖の海を見守る会（坂井市）	43
⑦	勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	44
⑧	日野川環境整備協議会（越前市）	47
⑨	敦賀河川を守る会（敦賀市）	51
⑩	魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）	59
⑪	小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）	62
⑫	南川ラインレスキュ一隊（小浜市）	67
⑬	おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）	71
⑭	若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	77

I. はじめに

平成 13 年に制定された水産基本法第 32 条において、漁村の有する水産業及び漁村の有する水産物の供給の機能以外の多面にわたる機能が、将来にわたって適切かつ十分に発揮されるようにするために必要な施策を講じると明記され、水産のもつ多面的機能について、初めて言及されました。また、平成 30 年に改訂された漁業法においても水産の有する多面的機能について、初めて記載されました。

水産多面的機能発揮対策は、水産業及び漁村の持つ多面的機能を将来にわたって適切かつ十分に発揮されるようにするため、漁業者や地域住民が行う効果的・効率的な多面的機能の発揮に資する活動を国、県および地元市町が一体的に支援する施策です。

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会は、福井県内で水産多面的機能発揮対策に取り組む活動組織に対して必要な資金を交付するほか、活動組織に対する指導を行うなど、水産多面的機能発揮対策を円滑に推進するための活動に取り組んでいます。

この報告書では、令和 4 年度に活動に取り組んだ県内 8 市町の 14 活動組織による取組内容について報告します。

令和 5 年 3 月 23 日

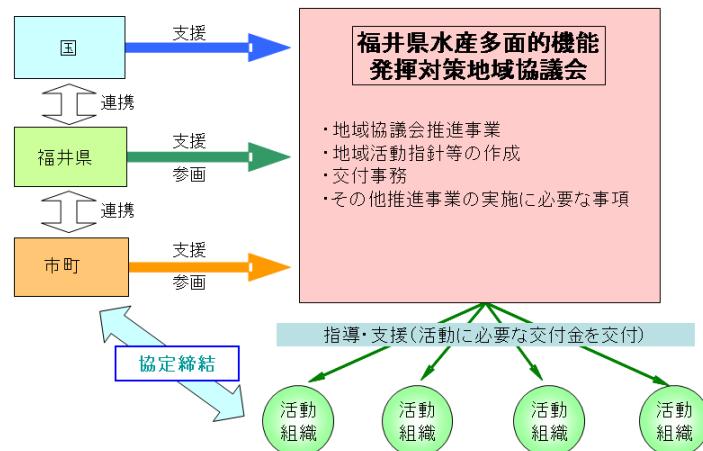
II. 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の活動

(1) 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会の役割

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会（以下、地域協議会）は、水産庁の交付金事業である「水産多面的機能発揮対策」を円滑に推進するため、福井県内で水産多面的機能発揮対策の活動に取り組む活動組織に対して必要な資金を交付するほか、活動組織に対して指導を行い、効果的な事業の実施に努めています。

福井県内では、令和4年度は、14の活動組織で漁業者と地域住民等が一体となって活動を進めています。

地域協議会では、事業を実施するにあたって、水産試験場等の専門機関による助言、指導が得られる体制を整備し、漁業者と地域住民等が一体なった保全活動を推進し、地域コミュニティの維持・発展による漁村地域の活性化が図られるようにしています



(2) 事業経過報告

年月日	内 容
令和4年6月10日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第19回通常総会
令和4年10月28日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 臨時総会
令和5年3月23日	福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会 第20回通常総会

(R4.4.1～R5.3.31)

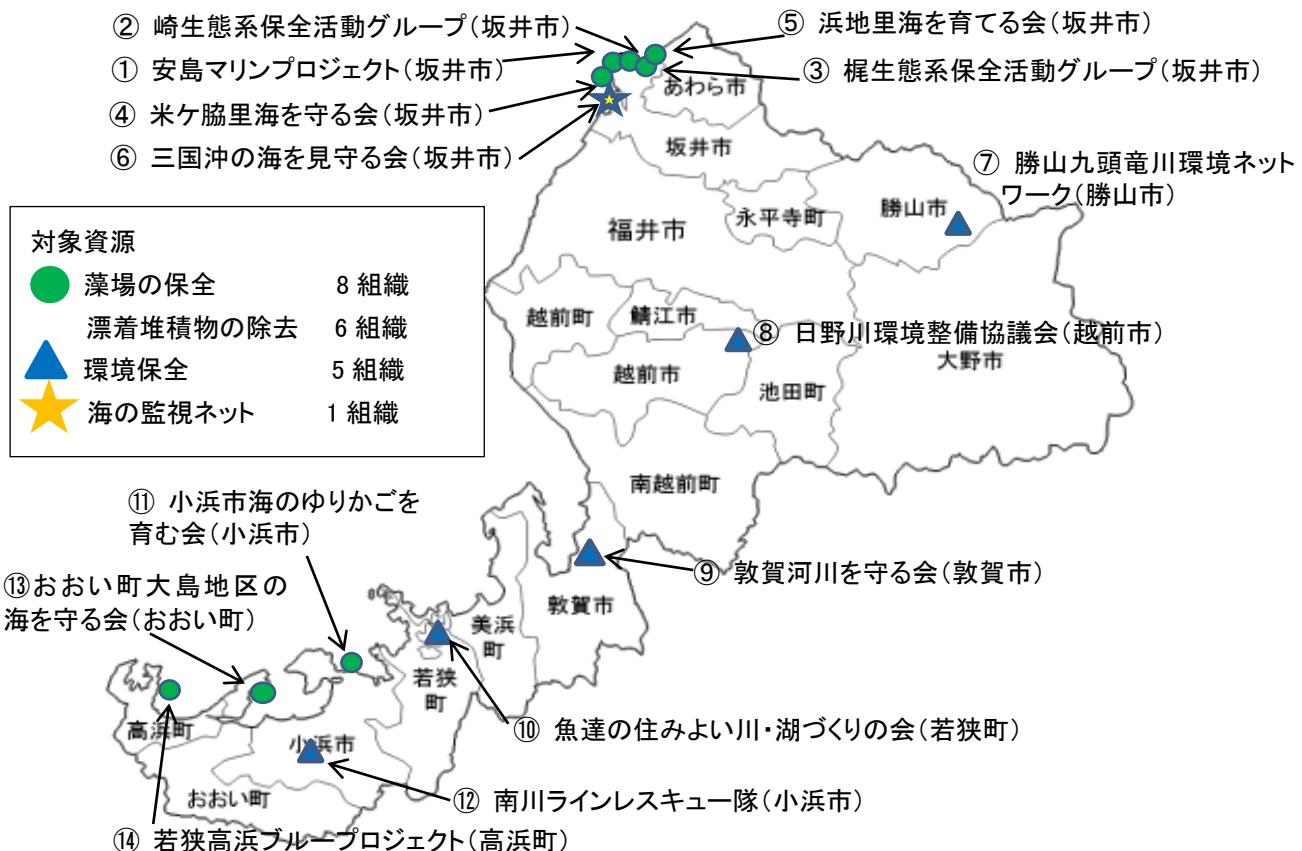
III. 福井県内の活動組織

(1) 県内の活動組織一覧（概要）

福井県内では、令和4年度に14の活動組織が保全活動に取り組んでいます。

- ① 安島マリンプロジェクト（坂井市）
- ② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）
- ③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）
- ④ 米ヶ脇里海を守る会（坂井市）
- ⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）
- ⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）
- ⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）
- ⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）
- ⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）
- ⑩ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）
- ⑪ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）
- ⑫ 南川ラインレスキュ一隊（小浜市）
- ⑬ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）
- ⑭ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

令和4年度 水産多面的機能発揮対策活動実施状況（概要）



(2) 各活動組織の紹介

① 安島マリンプロジェクト（坂井市）

活動組織名

安島マリンプロジェクト

代表者名

下影 務

発足年月日

平成 22 年 4 月 9 日（環境生態系） 平成 25 年 7 月 29 日（水産多面的）

構成員

漁業者：45 名 漁業者以外：安島区民 155 名

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去（魚類）

岩盤清掃

流域における植林・下草刈り

浮遊・堆積物の除去

その他特認活動（岩おこし）

モニタリング

教育・学習に質する取組

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理

対象資源の位置



② 崎生態系保全活動グループ(坂井市)

活動組織名

崎生態系保全活動グループ

代表者

山野 善信

発足年月日

平成 22 年 3 月 5 日 (環境生態系) 平成 25 年 7 月 29 日 (水産多面的)

構成員

漁業者 : 18 名

漁業者以外: 228 名 (崎区自治会、婦人会、崎青壯年男、崎区小学校PTA、崎区中学校PTA、
松島水族館)

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去 (魚類)

岩盤清掃

流域における植林

浮遊・堆積物の除去

その他特認活動 (岩おこし)

モニタリング

教育・学習に質する取組

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理

対象資源の位置



③ 梶生態系保全活動グループ (坂井市)

活動組織名

梶生態系保全活動グループ

代表者名

出嶋 昇

発足年月日

平成 22 年 2 月 27 日 (環境生態系) 平成 25 年 7 月 29 日 (水産多面的)

構成員

漁業者 : 157 名

漁業者以外 : 170 名 (梶区民 (92 戸) 、梶婦人会、梶子供会、貴船会、松寿会、観光業者)

対象資源

藻場

活動項目

食害生物の除去

岩盤清掃

流域における植林・下草刈り

浮遊・堆積物の除去

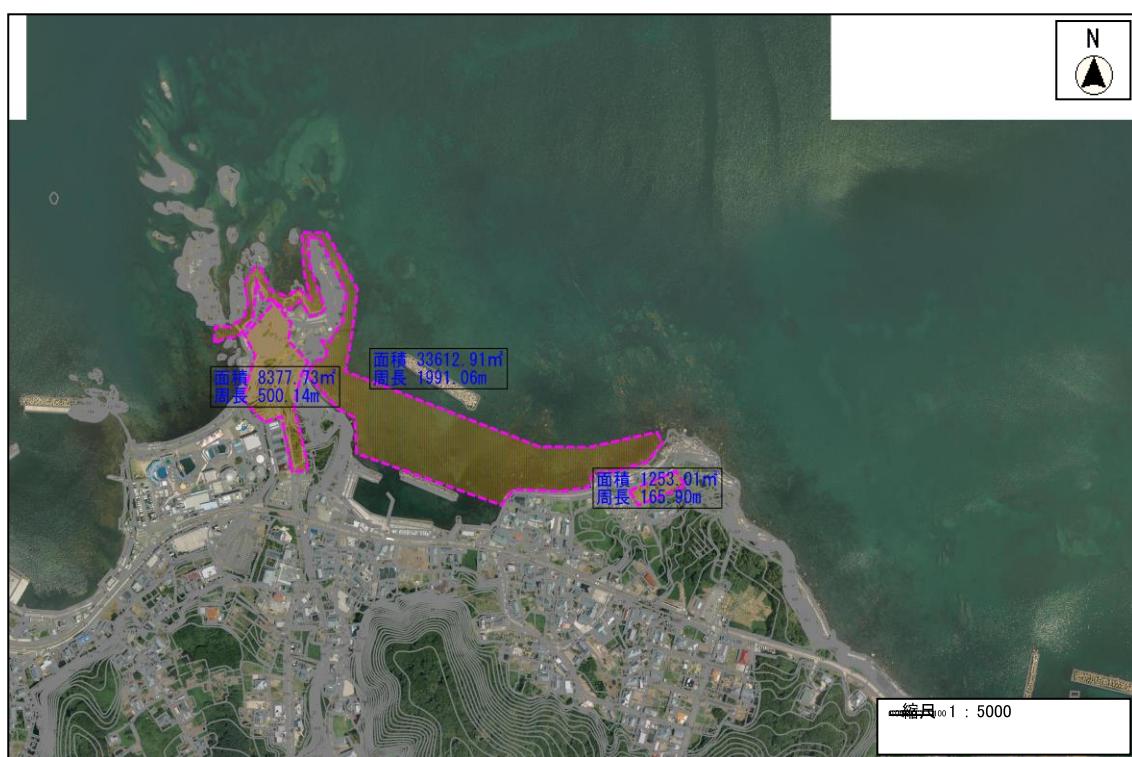
その他特認活動 (岩おこし)

モニタリング

教育・学習に質する取組

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理

対象資源の位置



④ 米ヶ脇里海を守る会 (坂井市)

活動組織名

米ヶ脇里海を守る会

代表者名

倉谷 政行

発足年月日

平成 22 年 3 月 7 日 (環境生態系) 平成 25 年 7 月 29 日 (水産多面的)

構成員

漁業者 : 25 人

漁業者以外 : 242 名 (漁友会、米ヶ脇自治会、嶺北消防組合坂井消防団 20 分団)

対象資源

藻場

活動項目

岩盤清掃

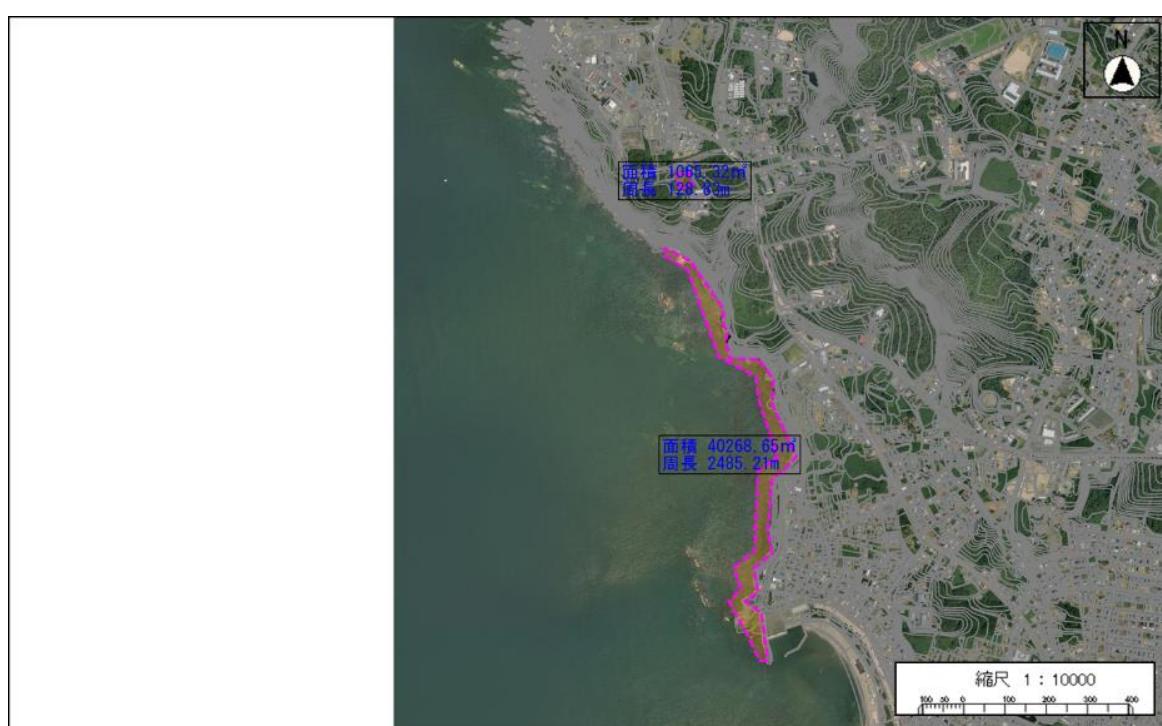
流域における植林・下草刈り

浮遊・堆積物の除去

その他の特認活動 (岩おこし)

漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等の処理

対象資源の位置



⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）

活動組織名

浜地里海を育てる会

代表者名

内川 保

発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

構成員

漁業者：13 名

漁業者以外：157 名（浜地自治会 56 戸 浜地地引網組合 浜地海水浴場浜茶屋振興会 越前松島水族館 三国ライフセービングクラブ 日本サーフィン連盟福井県支部）

対象資源

二枚貝

活動項目

- ・漁業者が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理
- ・教育・学習に質する取組

対象資源の位置



⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）

活動組織名

三国沖の海を見守る会

代表者名

山本 紀彦

発足年月日

平成 31 年 1 月 31 日

構成員

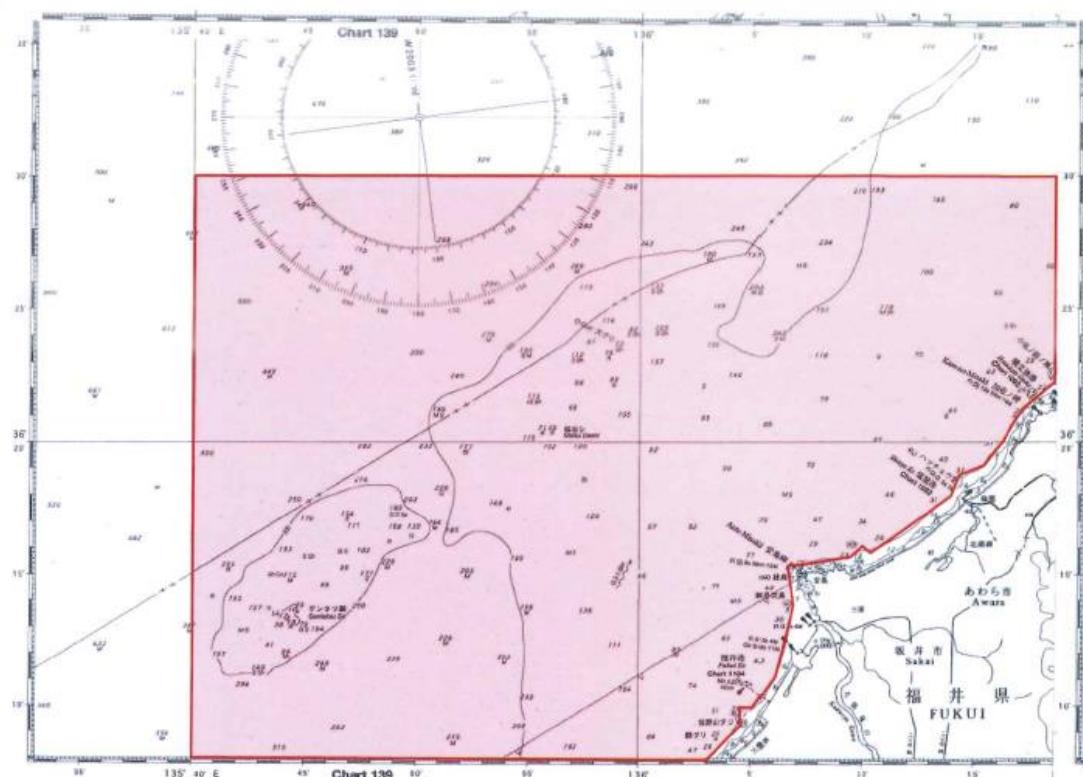
漁業者 : 20 名

漁業者以外 : 三国港漁業協同組合

活動項目

監視ネットワーク強化のための海上監視・情報収集

活動位置図



⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）

活動組織名

勝山九頭竜川環境ネットワーク

代表者名

茂呂 輝夫

発足年月日

平成 25 年 7 月 15 日

構成員

漁業者：123 名

漁業者以外：89 名（荒土町ふるさとづくり推進協議会、鹿谷町まちづくり協議会、野向町まちづくり推進委員会、勝山青年会議所 他）

対象資源

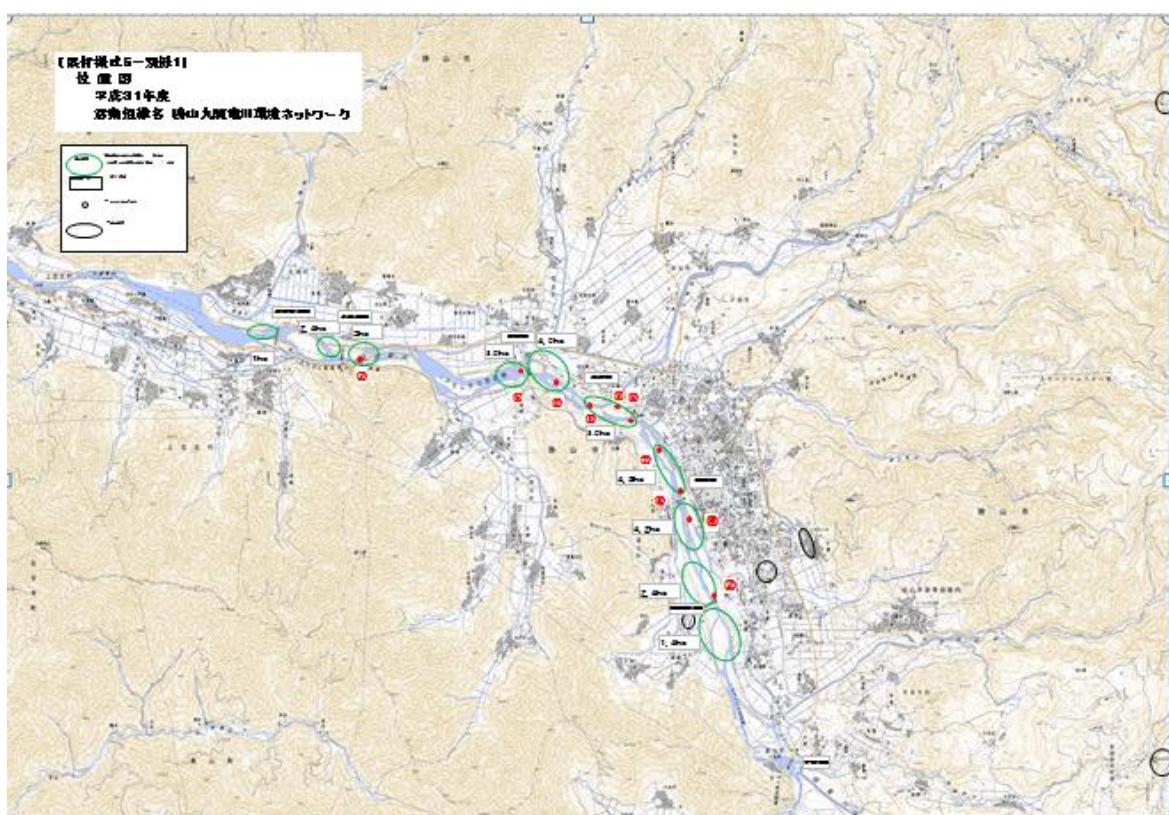
アユ等魚類

活動項目

河川清掃

教育・学習に質する取組

対象資源の位置



⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）

活動組織名

日野川環境整備協議会

代表者名

副会長 佐々木 武夫

発足年月日

平成 25 年 7 月 26 日

構成員

漁業者：119 名

漁業者以外：242 名（日野川用水土地改良区、松ヶ鼻土地改良区

日野川流域住民、地域住民（南越前町）地域住民（越前市）地域住民（鯖江市）日野川漁業協同組合事務局）

対象資源

アユ等魚類

活動項目

河川の清掃活動

対象資源の位置



⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）

活動組織名

敦賀河川を守る会

代表者名

岸本 勸

発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

構成員

漁業者：13 名

漁業者以外：7 名（中郷小学校校長、南小学校校長、中郷地区区長会代表、
中郷地区子供会指導者代表、ボーイスカウト指導者代表等）

対象資源

アユ等魚類、底性生物

活動項目

河川清掃

教育学習に質する取組

河床耕耘

対象資源の位置



○ 河川清掃箇所（5か所・計 8ha）

● 出前教室（中郷小学校・南小学校校）

□ 魚観察会（笙の川）

■ 川床掘り起し（笙の川）

⑩ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）

活動組織名

魚達の住みよい川・湖づくりの会

代表者名

田辺 喜代春

発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

構成員

漁業者：27 名

漁業者以外：29 名（みどり会、NPO 法人三方五湖を育む会、地域住民）

対象資源

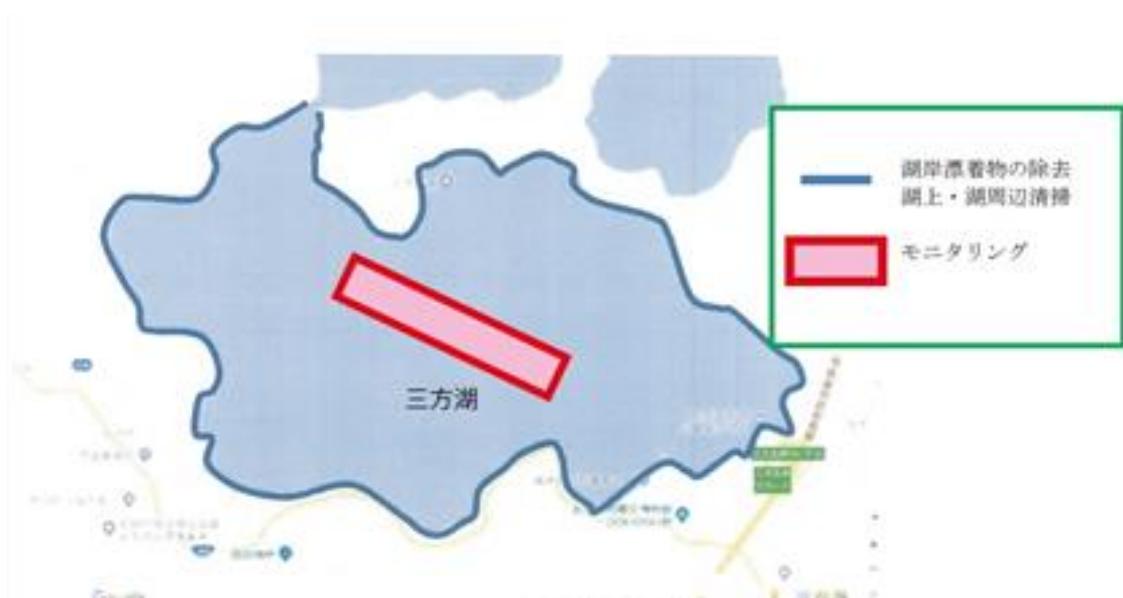
アユ等魚類

活動項目

湖岸漂着物の除去

湖上・湖周辺清掃

対象資源の位置



湖岸清掃の範囲

三方湖周囲 $9.2\text{km} \times \text{湖岸から}0.01\text{km}(10\text{m})$ の範囲 = 0.092km^2 約9ha

モニタリング 1ha

⑪ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）

活動組織名

小浜市海のゆりかごを育む会

代表者名

山下 雅司

発足年月日

平成 29 年 3 月 1 日

構成員

漁業者：274 名

漁業者以外：127 名（小浜市漁協、一般社団法人うみから、若狭高校海洋科学科、福井県立大学海洋生物資源学部、小浜市海のまちづくり未来会議、うまし漁村の会、れいなん森林組合）

対象資源

藻場

活動項目

母藻の設置、海藻の種苗投入、アマモの移植および播種、ウニの密度管理

砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理、教育学習に質する取組

対象資源の位置



⑫ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）

活動組織名

南川ラインレスキュー隊

代表者名

辻井 裕二

発足年月日

平成 29 年 2 月 7 日

構成員

漁業者：15 名

漁業者以外：85 名（今富まちづくり協議会、今富エース会、ILOVE 今富サポートアーズ、坂本農防団、森んこ、星のフィエスタ実行委員会、若狭小浜ドローン協会）

対象資源

魚類

活動項目

草刈り、清掃活動、ヨシ帯の刈り取り・間引き、浮遊・堆積物の除去

教育・学習に質する取組

対象資源の位置



⑬ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）

活動組織名

おおい町大島地区の海を守る会

代表者

長井 徳雄

発足年月日

令和4年2月25日

構成員

漁業者：60名

漁業者以外：12名（大島漁業協同組合）

対象資源

藻場

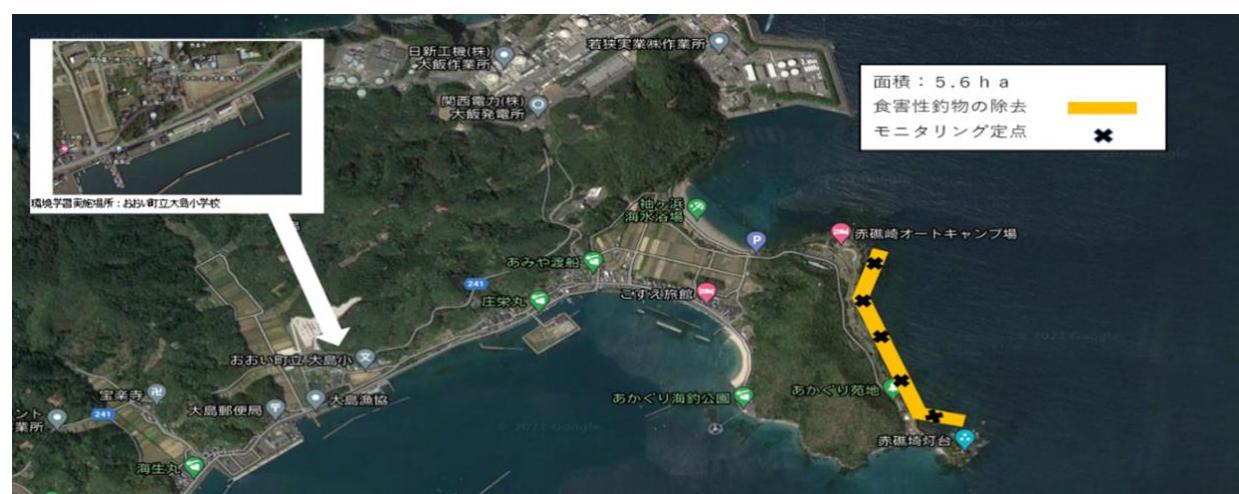
活動項目

食害生物の除去（ウニ類）

母藻の設置

モニタリング

対象資源の位置



⑬ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

活動組織名

若狭高浜ブループロジェクト

代表者

大黒 芳信

発足年月日

令和2年2月10日

構成員

漁業者：161名

漁業者以外：4名（若狭高浜漁業協同組合）

対象資源

藻場

活動項目

モニタリング

食害生物の除去（ウニ類）

母藻の設置

対象資源の位置



IV 令和4年度活動事例報告

安島マリンプロジェクト（坂井市）

活動組織名：安島マリンプロジェクト

1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約 20,000 人の都市である。安島マリンプロジェクトがある安島地区は人口約 900 人で、地域の主要な産業は漁業である。

地区には景勝地として有名な東尋坊があり、毎年多くの観光客が訪れている。

平成 9 年 1 月 7 日、ロシアタンカ一船ナホトカ号の船首部分が座礁接岸した地区もある。

2. 漁業の概要

安島マリンプロジェクトの主な構成員は、地元安島区民と雄島漁業協同組合安島支所に所属している漁業者である。雄島漁業協同組合安島支所の主要な漁業は浅海漁業であり、主な漁獲対象魚種は、越前ウニ、若布、さざえ、あわび、アマダイ、アジ、ヒラメ等が主である。

近年、漁師も海女も高年齢化が進み、後継者不足が専らの問題である。しかしこれで少人数だが数年前から新人海女たちが積極的に活躍をし始めたことで、幅広い年代の交流をすることによりこれまでの変わらない活動を継続することや新しい目線からの発想などで、この先継続して豊かな海を守っていくことを期待している。

3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日発足

(活動としては平成 22 年 4 月 9 日発足の環境生態系保全事業から継続して 11 年目となる)

(2) 構成員の数と形態

構成員 195 名（内訳 漁業者 45 名、安島区民 150 名）

(3) 活動延べ人数

約 450 人

(4) 対象地域での活動歴

当地区は東尋坊や雄島のある観光地でもあるため、区民総出の海岸清掃を年 2 回（春・秋）30 年以上前から実施している。また、環境生態系保全活動として平成 22 年度から区が主体となって活動を始め、平成 25 年度から水産多面的機能対策支援事業に活動を切替えて継続して実施している。

4. 活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

●活動場所



●資源の課題

今まで続けてきた保全活動により藻の生育が良くなり、藻を食べるウニやサザエの収穫量が増える等、良い兆しが見え始め資源の活性に期待をしているが、温暖化の影響か今年は例年に比べ水位が高く、岩のりの生育が悪く不作であった。これから先、だんだん変わり行く気象でも対応できるような活動を講じる必要があると考えるが、まだその案は見いだせないままである。

これまでの収穫高（収穫量kg）は次のとおり。



5. 活動の実施状況

実施年月日	活動内容	参加人数
R4. 4. 18	あか藻刈り作業	31
R4. 4. 23	あか藻刈り作業	29
R4. 6. 1	小学生わかめ干し体験	36
R4. 6. 19	流域における下草刈り作業	38
R4. 8. 30	岩おこし作業	20
R4. 8. 31	岩おこし作業	20
R4. 10. 2	ヒトデ駆除作業	21
R4. 10. 3	ヒトデ駆除作業	21
R4. 10. 21	流域における下草刈り作業	38
R4. 10. 27	岩盤清掃	15
R4. 10. 30	岩おこし作業	16
R4. 10. 31	ヒトデ駆除作業	5
R4. 11. 21	モニタリング作業	1
R4. 11. 22	モニタリング作業	1
R4. 11. 23	モニタリング作業	1



海中のヒトデの様子



海中の石を手作業で返す様子

6. 今後の課題や計画

本年は新型コロナ感染予防対策のことも念頭におきながら、活動を徐々に以前のように戻していく計画とした。やはり参加人数は少なめになったが、計画した活動がすべて計画通りに実施できた。

天候不良や高波の日が続くということがここ数年繰り返されているため、今後はこの状況を見据え、活動の時期をずらすなど違った形で藻場や環境を守るための作業計画を考えいかなければならないと考える。

また、長年の課題でもある漁業者的人数減少と高齢化についても深刻な問題であるため、若者に魅力のある漁場を作り豊かな資源を生み出すことにより、ここにしかない、ここでしかできないものをブランド化して、全国に発信できるように努めたい。



流域における下草刈り作業の様子



わかめ干し体験をする子どもたち



海岸清掃の様子



あか藻刈り作業の様子

② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）

活動組織名：崎生態系保全活動グループ

1. 漁業の概要

崎生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属しており、主要な漁業は海女による浅海漁業が中心であり、主な漁獲対象魚種は、うに、サザエ、アワビ、わかめ、岩のり、天草等で年間を通じて藻場の恩恵を受けております。うに は高級珍味の「塩うに」となり、わかめは「もみわかめ」として、名産品として販売されています。

2. 活動組織の運営

(1) 環境・生態系保全対策活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 5 日 設立総会

(2) 水産多面的機能発揮対策活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日 事業内容説明会

(3) 構成員の数と形態

構成員 : 全 246 名

(内訳 漁業者 : 18 名、自治会 : 220 名、松島水族館 : 8 名)

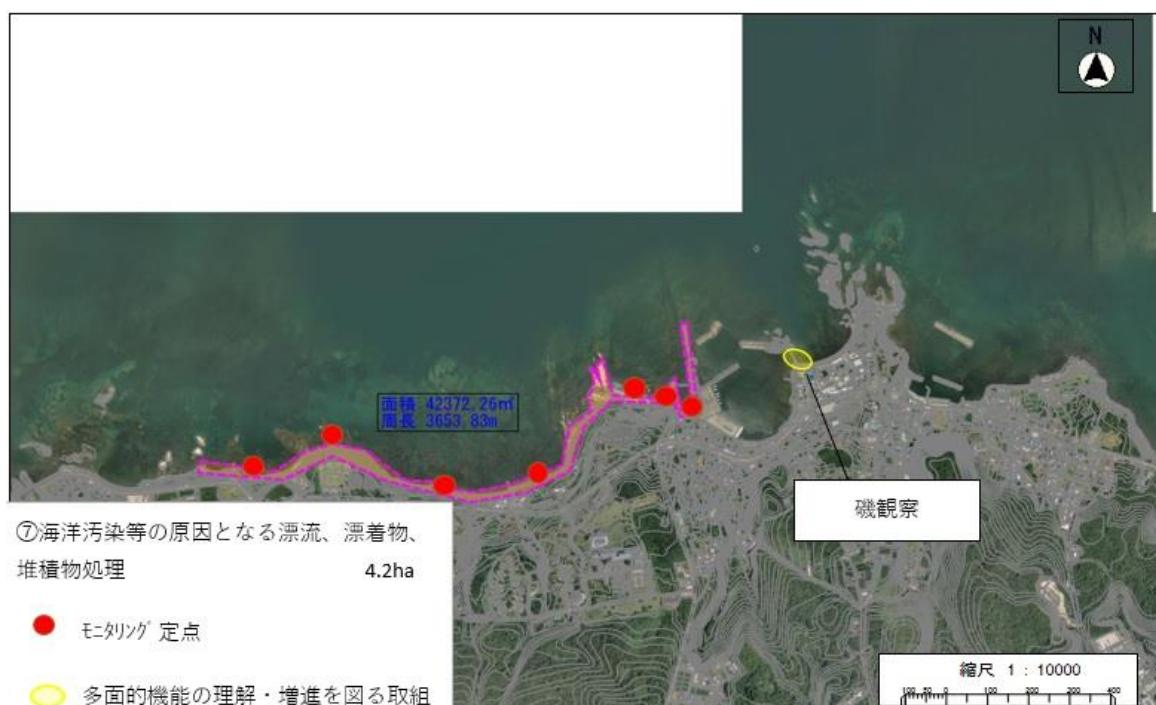
(4) 活動延べ人数

- 平成 22 年度 666 人
- 平成 23 年度 704 人
- 平成 24 年度 645 人
- 平成 25 年度 412 人
- 平成 26 年度 582 人
- 平成 27 年度 574 人
- 平成 28 年度 521 人
- 平成 29 年度 543 人
- 平成 30 年度 541 人
- 平成 31 年度 499 人
- 令和 2 年度 369 人
- 令和 3 年度 347 人
- 令和 4 年度 351 人

(5) 対象地域での保全活動歴

崎地区では、平成 22 年度から「崎生態系保全活動グループ」が主体となって、保全活動の計画づくり、モニタリング、及び藻場の岩盤清掃、浮遊・堆積物の除去、流域の植林活動等を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題



活動位置 (崎地先藻場、面積：4. 2ha)

4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	海難救助訓練	海上漂流者を船を出して救出	21名	1回開催
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	モニタリング	状況の確認 (コドラート法)	3名	3回実施
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	保全活動	有害生物の除去	44名	5回実施
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	保全活動	海底耕うん、岩おこし	30名	4回実施
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	保全活動	岩盤清掃 (のり畑清掃)	12名	1回実施
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理	漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理 (海岸・渚帯の清掃)	130名	5回実施
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	保全活動	教育と啓発の機会の提供(磯観察)	43名	1回実施
R4. 4. 1～ R5. 2. 2	保全活動	流域の植林 (流域の下草刈り)	67名	2回実施
R4. 9. 7	全国講習会	A P名古屋会場	1名	1回参加

延活動人員 351名

(2) 活動内容写真

「教育と学習の機会 磯観察会」
(越前松島水族館様のご協力)

(活動中の小学生)



「モニタリング」

(海藻等の定点モニタリング)



(海藻等の定点モニタリング)



「有害生物の除去」



「海底耕うん・岩おこし」

(活動中)



(活動中)



「岩盤清掃」のり畳清掃

(のり畳清掃中)



(のり畳清掃中)



「漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理」海岸清掃・ごみ拾い

(清掃前の状況)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(清掃活動中)



(活動參加者)



「海難救助訓練」海上漂流者の救助

(カヌー漂流者を想定)



(海上救助活動中)



「流域の植林」下草刈り

(下草刈り活動中)



(活動中)



(3) 広報活動

- ・「水産多面的機能発揮対策」において、海の現状、藻場の大切さ、海の環境等を知ってもらうため、各活動前では回覧版等による広報活動を行い地区住民には小学生以上全員参加を呼びかけた交流活動で情報発信をすることが出来ました。

(4) 活動内容の特色

- ・雄島小学校の皆様にも協力していただき、松島水族館前の海岸で「磯観察」活動を毎年実施しておりましたがコロナ禍で中断していました。しかし本年度再開することができ大変嬉しく思っています。

(5) 効果

- ・「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場の環境は活動前と比較すると随分と向上し、ウニ、サザエ等が育成しやすい環境となってきているが（但し上記生物の生育は、海中の水温に影響されやすい傾向にあります）効果については、浅海漁業の漁獲量で増加した物もあれば、減少した物もありますが、若干増加の傾向にあり活動効果が出ているものと思われます。

5. 今後の課題や計画

- ・地域住民の共有財産である藻場は、今後も環境保全の維持管理に努め「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、交流の場を広めていき「教育と啓発の機会の提供」活動も継続して実施していきます。

③梶生態系保全活動グループ (坂井市)

活動組織名：梶生態系活動グループ

1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約2万人の町である。当グループがある地区は、東は浜地地区との境界である今津川付近から、西は崎地区との境界である越前松島水族館付近までが活動場所である。当地区は幹線道路から海岸線へ延びる道路が狭い場所や、海岸と道路の間が険しい崖となっている場所が多い。また、同地区には諸外国から海防のため築いた砲台である国指定史跡の丸岡藩砲台跡、火山活動で形成され、隆起と海食で現れた国指定名勝天然記念物の越前松島海岸のある場所に位置する。

2. 漁業の概要

梶生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属している梶支所の組合員を中心に梶区住民全員である。組合員の主要な漁業は漁師は魚の一本釣りで、主な漁獲対象魚類はタイ・ハマチ・アジ・ヒラメ等である。海女は素潜りで主な漁獲対象物は、わかめ・ウニ・さざえ・あわび・岩海苔等がある。

組合員は40歳代の海女から80歳代の漁師がいるが、組合員の7割近くは70歳を超える会員であり、高齢化からくる組合員の減少も著しい。現構成員で藻場の保全活動を継続しながら、当地区から新規就業者や若手組合員を排出する体制づくりを求めている。

3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成22年2月27日 活動13年目

(2) 構成員の数と形態

構成員 約170名

(内訳 漁業者15名、梶区各種団体、梶区民)

(3) 活動延べ人数

平成23年度	623人、	平成24年度	489人、	平成25年度	422人
平成26年度	494人、	平成27年度	607人、	平成28年度	611人
平成29年度	466人、	平成30年度	422人、	平成31年度	502人
令和2年度	420人、	令和3年度	393人、	令和4年度	398人

昨年度は新型コロナウイルス感染対策を行いながら、啓蒙活動である子供会への体験学習や下草刈・海中清掃など例年通りの活動を行った。

また、海洋汚染等の原因となる漂流・漂着物・堆積物の処理活動では活動地域が落石・倒木等で危険な状態であること、漂流・漂着物の搬送する道路（遊歩道）もかなり危険な状況となっていることから事故には十分注意を払いながら活動を行った。

(4) 対象地域での保全活動歴

梶地区では、平成 22 年度から区民総出の漂着ゴミの回収を中心とした海岸清掃・流域海岸の下草刈り、漁業組合員主体の特認作業の岩起こしや有害生物の除去などの海中清掃、海苔畠の岩盤清掃を実施している。

海を知らない地元子供に対し海と漁村への親近感を感じてもらうため、子供会との釣り体験・魚料理体験・植林等を例年通り行うも子供の急激な減少により、今後の啓蒙活動を継続的に行なうことが危惧される。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所



⑦海洋汚染等の原因となる漂流、
漂着物、堆積物処理 2.2ha



①藻場の保全 4.2ha

(2) 対象資源の現状

当地区海岸は大規模な磯焼けなどは発生しておらず海女による素潜りでの漁獲量は近年横ばいか微増で、活動を通じてかろうじて現状の藻場を維持していることは認識しているものの、「岩起こし」活動が困難な区域は漂砂を起こしている海岸も少なくない。

漁獲量のデータがない為、詳しい漁獲量を確認できないが組合役員に確認したところ、近年は横ばいであるが長期的観測では減少しているのは確かであるとのこと。

(3) 課題：漁場の整備と育成

漁業組合員の高齢化に伴う会員の減少は漁業壊滅につながる恐れがあり、次世代の若者は漁業への魅力が少なく関心が薄いのも事実である。当活動の漁場育成による良漁場の回復で水産資源の確保と、啓蒙活動や体験教室など次世代の担い手の育成を行うことが必須である。

令和 4 年 1 月現在会員数

年齢別組合員	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
海女	0 人	1 人	2 人	0 人	2 人	2 人
漁師	0 人	0 人	0 人	2 人	4 人	2 人

現在、海女 7 名、漁師 8 名の会員がおり、重労働である海女活動や漁師活動において高齢を理由に組合を脱退する者や、持病により軽作業は行うが今まで通りの漁業を行う事のできない会員などもいる。伝馬船を所有している者に組合員加入の勧誘を行うが、漁業自体が趣味の範囲程度であり組合員加入を拒否している。魅力ある組合作りが必要である。

5. 昨年度の実施状況及び効果のまとめ

海岸清掃活動：漂着物の回収を中心とした海岸清掃



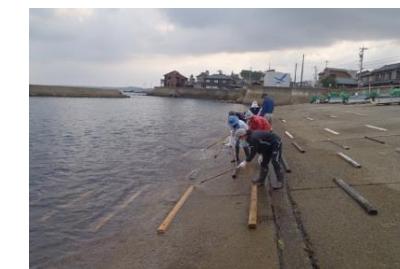
流域における植林及び下草刈：海岸の下草刈



海中清掃活動：漁場育成



岩盤清掃活動・海苔畑清掃：岩海苔の漁場育成



教育・学習活動：植林活動



教育・学習活動：釣り体験



教育・学習活動：料理体験



植林体験・釣体験・料理体験などは子供の行事・習い事等と重なり、価値観の多様化は当該活動を優先させることはないものの、小学校で体験できるものではなく実施に積極的な父兄が多い。また、体験学習終了後、子供にアンケートを実施したところ「植林の必要性の理解」や「魚釣や魚料理に興味を示す」意見が多くあった。

6. 昨年度の課題

当グループは県の水産多目的機能発揮対策事業の一環として、役員で活動計画を立案し地域住民の理解を増進し課題点を明確にして活動を行ってきた。

昨年度は新型コロナウイルス感染防止を十分に行い例年程度の活動ができた。

活動における区民の認知度は高く構成員や漁業者の積極的参加は確実にあるが長期的観測で海産物の減少は明確であり、当グループの漁場育成の抜本的な改善は限界を感じていたところ、一昨年のシンポジウム開催にあたって取材を受けた際の専門家とのヒアリングでは、現活動は藻場の保全に対し貢献できていることが再確認でき、今後も継続的な活動を行っていきたい。しかし、少子高齢化に伴う組合員減少が最大の課題である。

7. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 昨年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者	備考
R4. 4. 9	藻場の保全	植林場所の下草刈	10名	子供会父兄・梶区役員
R4. 4. 10	藻場の保全	植林・植林場所の整理	12名	子供会父兄・梶区役員
R4. 4. 17	漂流・漂着物の処理	海岸清掃	68名	構成員
R4. 4. 18	藻場の保全	浮遊・堆積物の処理	10名	組合員
R4. 4. 19	藻場の保全	浮遊・堆積物の処理	10名	組合員
R4. 4. 22	藻場の保全	浮遊・堆積物の処理	10名	組合員
R4. 4. 28	藻場の保全	植林場所の下草刈	6名	梶区役員・組合員
R4. 6. 5	藻場の保全	海岸の下草刈	8名	梶区役員
R4. 6. 10	藻場の保全	食害生物の除去	11名	組合員
R4. 6. 11	藻場の保全	食害生物の除去	8名	組合員
R4. 6. 19	藻場の保全	モニタリング	2名	組合員
R4. 7. 10	藻場の保全	海岸の下草刈	71名	構成員
R4. 7. 17	藻場の保全	釣・料理体験	16名	子供会・組合員
R4. 8. 23	藻場の保全	岩起こし（特認作業）	10名	組合員
R4. 8. 27	藻場の保全	岩起こし（特認作業）	9名	組合員
R4. 9. 4	藻場の保全	植林場所の下草刈	10名	梶区役員
R4. 9. 11	漂流・漂着物の処理	海岸清掃	63名	構成員
R4. 10. 23	漂流・漂着物の処理	海岸清掃	52名	構成員
R4. 10. 23	漂流・漂着物の処理	モニタリング	2名	構成員
R4. 10. 23	藻場の保全	海苔畠の清掃	10名	組合員

(2) 活動の内容、効果等

海岸清掃



岩盤清掃

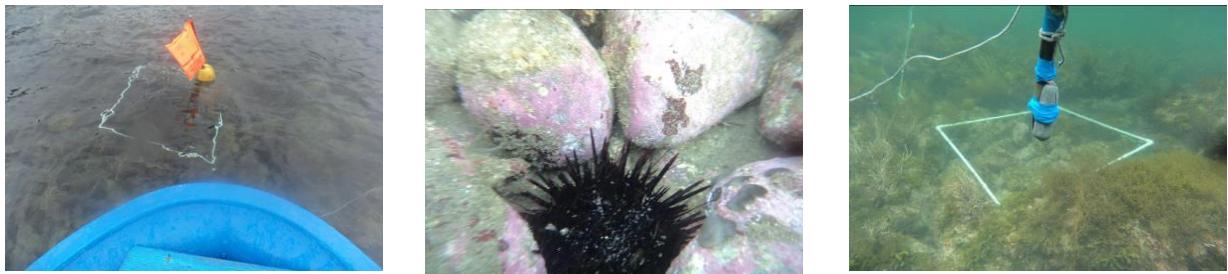


岩起こし



海岸清掃・岩盤清掃・岩おこしなどにより、良好な漁場を確保し、ウニ・海苔・わかめ・さざえ等の成育を良好にする。

(3) モニタリングの様子



・昨年度は諸事情により早期のモニタリングを実施、前回実施場所でホンダワラ刈を行った海岸 3ヶ所、行っていない海岸 3ヶ所を対象に水深約 1m～2mに同じ面積中に海産物等の生息状況や海藻の生息状況のモニタリングを行った。前回同様ホンダワラが大量発生しなかったことと積極的に間引きをしたことで生育状況は前回より良かった。ホンダワラの間引きの効果は生育状況を左右することを確認している。

海女さんへの聞き取り。

○わかめの漁獲に対する活動の効果について

漁獲量は前回と比べ微増であり活動効果は専門家の判断でも多少影響があると判断されており、今後も活動を続けて効果を見てはどうかとのこと。

○ウニの漁獲に対する活動の効果について。

漁獲量は前回と同じくらいであるが、長期的観測では減少傾向で活動効果の影響は分からぬが多少はあるだろうとのこと。

○岩海苔の漁獲に対する活動の効果について。

需要も少なく積極的な漁獲に取組む海女は少ないが、贈り物や昔からの海の味として好む人も少なくない。漁獲量は少ないが継続的に保全活動を行う。

8. 今後の課題や計画

今後の課題について

- (1) 水産資源の減少と漁業組合員の高齢化、担い手不足
- (2) 継続的活動による良漁場の確保
- (3) 今後の計画について

○専門家とのヒアリングでは現状行っている海岸清掃・沿岸清掃・海中清掃等は漁場育成に多少影響しているとのことであり、例年程度の活動は行っていきたい。また、専門家とのヒアリングを代表者と事務局だけでなく組合員全員と行えば今後の効果がもっと出てくると思われる。

④ 米ヶ脇里海を守る会

活動組織名 米ヶ脇里海を守る会

1. 地域の概要

坂井市三国町は、福井県の北部海岸沿いに位置し、人口が約2万2千人の町である。米ヶ脇里海を守る会がある米ヶ脇地区には世帯数約240世帯、700人あまりが居住している。また地区には年間100万人を超す観光客が訪れる奇勝・東尋坊があるほか、九頭竜川河口に遠浅で安全な海水浴場や、きれいな夕日の沈む海岸線でも知られている。



2. 漁業の概要

米ヶ脇里海を守る会の主な構成員は、雄島漁業協同組合米ヶ脇支所に所属している。雄島漁業協同組合米ヶ脇支所の主要な漁法は海女漁であり冬の岩のり採りに始まり初春のスガモ採り初夏のワカメ、ウニ、サザエ、アワビなどが水揚げされている。それらの海産物が地元民宿・旅館の需要を満たすほか、昔からウニ・ワカメなど三国の高級食材として珍重されている。



3. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 7 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 27 名と 240 戸（米ヶ脇自治会）

（漁業者 25 名・漁友会 2 名・米ヶ脇自治会 240 戸）

(3) 活動延べ人数

活動延べ人数 276 名（今年度実施した活動の延べ人数）

(4) 対象地域での保全活動歴

米ヶ脇地区では、平成 22 年度から米ヶ脇里海を守る会が主体となって地先藻場（里海エリア）を対象に環境・生態系保全活動を実施。

4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状と課題

〔活動場所：三国ヨットハーバーから東尋坊までの地先磯および海岸一体〕

〔現状〕 平成 22 年度から 31 年度まで生態系保全事業によって実施してきたスゲ採りやヒトデ捕り・浅瀬の砂取りや岩起こし及び森作り下草刈り作業を地先全域で行ったことによりウニ・アワビ・サザエなどの貝類やワカメ・天草・岩ノリ・スガモなどの海藻類にも繁殖にも徐々にではあるが以前と比べ成果を挙げてきている。また、米ヶ脇活崎「若えびす裏」の県による砂の回収作業では、砂の堆積を岩盤が見えるほどに激減させ平成 26 年 4 月当初、海岸線が以前の砂場から一部岩盤がむき出し、浅瀬ではアオサが一面に

繁茂している状態にまでなってきた。さらに、その海岸におけるモニタリングの実施により、砂の堆積の状態や貝類・海藻類の成長具合など過去と比較でき良好に推移している状況が掴めた。そこで、組合活動として、これらの収穫が増産されたことにより、当組合も地域住民に海の幸を分け与えたいとの思いから、ワカメ干し体験、天草を使った「ところてん作り・試食会」と活動の場を設けたところ、参加者からの反響も良好で、組合員の結束にも一役買った感があった。さらに、28年度は地元の高齢者の会27名との交流事業で地元の海岸で採取した貝類などの調理・試食の提供で食文化の伝承と身近な海のすばらしさを感じ取っていただく事業を展開してきた。

〔課題〕

① モニタリングの継続

米ヶ脇活崎「若えびす裏」のモニタリングでは、陸及び海中からの写真撮影や8箇所に埋め込んだ砂堆積の計測機器により海の状況を適切にデータとして把握していく必要がある為継続中であるが、さらに28年度はモニタリング箇所を4箇所増やし、砂の堆積やその周りの生き物の調査を実施し、これを継続事業として行った。29年度も活崎での8箇所のモニタリング点において水際から5~6mの所（砂撤去により岩石が出てきた場所）を調べたら、トコブシ・ガンボ・黒ウニ・バフンウニ・ヒトデを写真に撮ることができた。天草も8点の内前回は3箇所ぐらいしかなかったが、今回は7箇所で見られ5年間のモニタリングで砂撤去により回復したことがわかり、これからも海中のモニタリングを継続したい。

② 砂撤去作業

米ヶ脇地先「波瀬海岸」にて、砂撤去作業を人海戦術で行った。一面砂原であったが、作業努力によりあちこちで岩盤が出現するようになりそれなりの効果が認められたため、次年度も地域住民と共に砂採り作業を継続したい。

③ イベント事業の開催

○ワカメ干し体験

地区内外の参加者に好評を得ているワカメ干し体験は、昨年組合員に加入した若手の海女の2・3年後の上達を見極めたうえで、天候や海の条件などを考慮して、イベントの継続をして行きたい。



④ 一般事業の継続

岩起こしは、海女の体力を考え時間の短縮と回数の見直しを検討。（作業区域を小さく区分けし、回数を1回増やすことで進めた。）しかしながら、海の条件が悪くなかなか計画通りには進められないことが問題。



⑤ 浜地里海を育てる会（坂井市）

活動組織名：浜地里海を育てる会

1. 漁業の概要

浜地里海を育てる会のうち、漁業者は雄島漁業協同組合に所属している。

海岸線が砂浜のため、漁獲法は地引網や刺し網である。水揚げされる魚の種類は、コウナゴやフグ・鯛・イナダ・イカなどだが、地曳網については近年、観光用がほとんどで漁獲本来の操業は行われていない。刺し網については一定の操業が行われている。また春のシーズンには離岸堤に繁茂するワカメ漁が盛んに行われ、地区内のいたるところでワカメの天日干しの光景が見られる。

昭和 30 年代に砂浜保全のための離岸堤が約 100 メートル沖へ設置され、本来の沿岸漁業操業の場が狭小かつ遠隔となり漁獲は減少した。しかし、離岸堤の消波ブロックのおかげで、ワカメ以外にも牡蠣・サザエ・アワビが採れるようになった利点もある。

浜地には、大きな漁場がありながら漁港がないため、動力船等は隣の地区（崎・梶）の漁港に係留せざるを得ない。漁業者は若年層の新規就業もなく高齢化が進んでいる。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日 9 年目

（2）構成員の数と形態

漁業者＝雄島漁協浜地支部 8 名 地引網組合 3 名、浜地海水浴場振興会 2 名

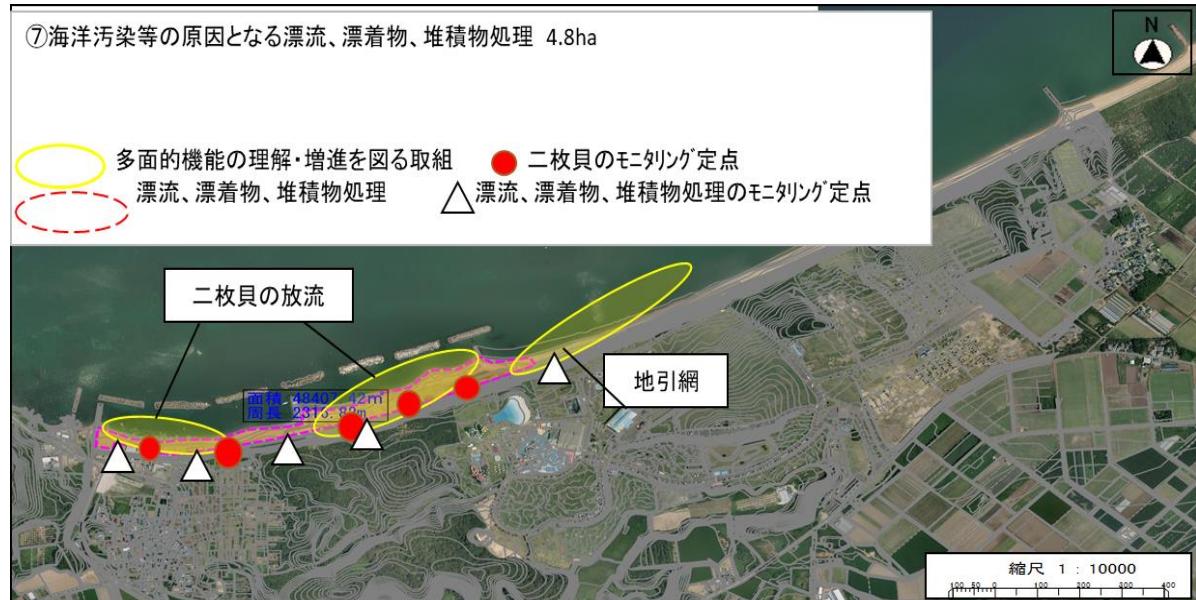
浜地区民（54 戸）その他の協力団体としては越前松島水族館など。

（3）活動延べ人数（今年度）

海岸清掃ボランティア（一般参加者、県内企業従業員など）を含むのべ 171 名
(令和 4 年 12 月 31 日まで)

（4）活動の対象範囲と対象資源の現状

① 活動場所



② 対象資源の現状

- ・砂浜海岸につき、地曳網、刺し網漁中心ですがホウボウ、鯛、キス、カレイ類、サザエ、赤バイ貝など。
この他には離岸堤付近において毎年春にはワカメの収穫が行われています。

(5) 本年度の主な活動

- ・海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理海岸の清掃活動を実施。上記企画の他、地区在住構成員などで漂流、漂着物、堆積物処理を3回実施。今季は福井新聞社とトヨタ自動車の県内販売会社グループによる清掃ボランティアが参加した取組も実施しました。
- ・多面的機能の理解・増進を図る取組
今年度も、ハマグリの放流事業を試行しました。6月、清掃ボランティア活動参加者に稚貝20kgを放流してもらいました。

2. 活動の模様



▲海岸清掃作業



▲回収された漂着物



▲「伝統工芸アイドル」さくらいとのみなさん



▲ハマグリの放流体験



▲生息、定着確認のモニタリング（10月）



▲鋤簾（じよれん）による調査

3. 活動記録

実施月日	活動実施日時		活動参加人数			活動実績		備考	
	時間帯	実施時間	総参加者数	構成員	非構成員	活動項目	活動内容		
漁業者	漁業者以外								
4月11日	9時～10時	1時間	1	1		漂着物の処理	定点モニタリング		
4月16日	7時～9時	2時間	5	4	1	漂着物の処理	海岸清掃作業(P回収)	荒天のため P、回収	
4月23日	7時～11時	4時間	22	6	16	漂着物の処理	海岸清掃作業		
5月10日	9時～10時	1時間	1	1		漂着物の処理	定点モニタリング		
6月10日	9時～10時	1時間	1	1		漂着物の処理	定点モニタリング		
6月25日	7時～12時	5時間	90	4	4	82	漂着物の処理	海岸清掃支援作業	福井新聞
6月30日	7時～10時	3時間	6	6			漂着物の処理	海岸清掃作業	漁協組合員(経費申請せず)
7月10日	9時～10時	1時間	1	1			漂着物の処理	定点モニタリング	
8月10日	9時～10時	1時間	1	1			漂着物の処理	定点モニタリング	
9月10日	9時～10時	1時間	1	1			漂着物の処理	定点モニタリング	
10月10日	9時～10時	1時間	1	1			漂着物の処理	定点モニタリング	
10月16日	7時～10時	3時間	21	5	16	0	漂着物の処理	海岸清掃作業	
10月16日	10時～11時	1時間	6	5	1	0	漂着物の処理	生物モニタリング	ハマグリ
11月10日	9時～10時	1時間	1	1			漂着物の処理	定点モニタリング	
11月19日	7時～10時	3時間	19	5	14	0	漂着物の処理	海岸清掃作業	
			171	38	51	82			

4. 今年度の活動を振り返って

・今年も二枚貝（ハマグリ）放流を実施しましたが、その後のモニタリングでは今回も定着を確認できませんでした。活動の成果指標が水生生物の定着量ではありますが、成果は出ていません。

当地海岸の海底は砂地であり、二枚貝類は生息可能と想定されますが、鋤簾によるモニタリングが効果的なのかが不明です。またハマグリの特性として大きく海流に乗って移動する習性があり、必ずしも当地に定着していないことも考えられるので、次年度の取組については検討が必要と考えています。

・福井新聞社とトヨタ自動車グループが開催する環境保護イベントが3年ぶりに開催となりました。

感染防止対策で現地参加者を 70 名に制限、地曳網はできませんでしたが、ハマグリの放流体験を実施。地域外の大勢の親子連れに参加していただくことができました。

・今年度は感染症流行第 7 波もあり、構成員による海岸清掃活動が例年の半分、3 回のみの実施となりました。漂着物には長大な流木も多くあるため、最終処理は港湾事務所など公的機関の協力を仰ぐことも次年度は検討しつつ行う予定です。

⑥ 三国沖の海を見守る会（坂井市）

活動組織名 三国沖の海を見守る会

1. 漁業の概要

三国沖の海を見守る会の主な構成員は、三国港漁業協同組合に所属している。三国港漁業協同組合の主要な漁業は一本釣りである。春はメバルやアマダイ、夏はアジやヒラマサ、秋はカワハギ、冬はフクラギやタラなどが獲れる。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 31 年 1 月 31 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 21 人

(漁業者 20 人・事務員 1 人)

3. 活動内容

通常の漁と併せて、不審船や環境異変の有無を確認する。また、確認記録が記載された日報の取りまとめを行う。

4. 活動実績（令和 5 年 1 月末まで）

第 1 四半期：監視隻数延べ 89 隻、日報の取りまとめ作業 21 日

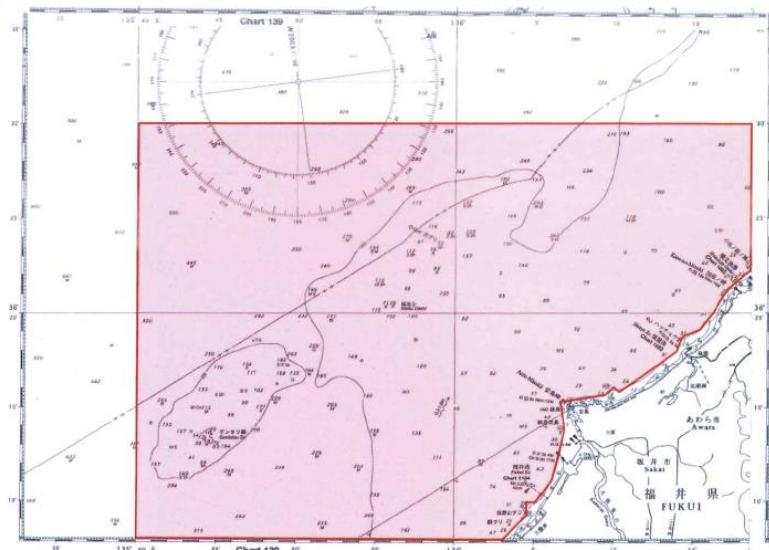
第 2 四半期：監視隻数延べ 114 隻、日報の取りまとめ作業 24 日

第 3 四半期：監視隻数延べ 117 隻、日報の取りまとめ作業 22 日

第 4 四半期：監視隻数延べ 23 隻、日報の取りまとめ作業 3 日

合 計：監視隻数延べ 343 隻、日報の取りまとめ作業 70 日

5. 活動場所



⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）

活動組織名：勝山九頭竜川環境ネットワーク

1. 漁業の概要

勝山九頭竜川環境ネットワークの主な構成員は、勝山市漁業協同組合員であるが、それに付随して地域の団体並びに福井県立大学等がグループに加わって組織となっている。主要な漁業は、アユをはじめ、ヤマメやイワナなどの淡水魚あり、年間を通して遊漁証を販売している。また、モニタリング調査を通して河川に生息する生態状況を把握することで、釣り人の拡充と環境整備に努めている。主要漁法は竿釣り、投網などである。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 15 日



モニタリング



一斉清掃集合写真

（2）構成員の数と形態

構成員 212 名

（内訳：漁業者 123 名、県立大学 1 名、サクラマスレストラン 3 名
地域団体等 85 名）

（3）対象地域での保全活動

市内を流れる九頭竜川の内水面環境の変化を把握し、清掃や草刈りといった活動を行い、生態系の維持と改善、河川環境の維持に努めてきた。また子供たちを対象に出前講座を実施し、九頭竜川に生息する生き物や、川をきれいにすることの大切さを子供から大人まで市民に広く伝え、環境意識の向上を図っている。

活動日		活動区分	活動内容	参加人数
6月 18 日	土	モニタリング調査	放流後の生育状況調査	16
5月 15 日	日	一斉清掃	第1回	74
7月 10 日	日	一斉清掃	第1回	48
9月 11 日	日	一斉清掃	第1回	62
6月 1 日～ 6月 5 日	水～ 日	草刈り	第1回	70 (延べ人数)
8月 1 日～ 8月 16 日	月～ 火	草刈り	第2回	52 (延べ人数)
5月 25 日	水	出前講座	荒土小学校	31
5月 26 日	木	出前講座	鹿谷保育園 成器南幼稚園	29
6月 25 日	土	出前講座	旭毛屋子ども会 観光客	61
9月 25 日	日	出前講座	平泉寺小学校 2年生	10



一斉清掃・草刈り



8月豪雨災害



8月豪雨災害 復旧作業



出前講座の様子

3. 活動の状況と今後の課題

モニタリング調査の結果を基に九頭竜川の河川状況を的確に把握することで、効果的な清掃・草刈り活動ができた。また、出前講座を実施することで河川をきれいにすることの大切さを子供から大人まで市民に広く伝え、環境意識の向上を図ることができた。

8月の豪雨では、市内の3河川が氾濫し、九頭竜川にも渦流がおしよせるなど大きな被害がでた。この影響により鮎の生息地の状況は大きく変わり早急に復旧を行う必要が生じたため、豪雨以降の活動が危ぶまれる事態になった。

8月の豪雨の被害状況を踏まえながら、今後も引き続き河川清掃・草刈り活動に取り組み、九頭竜川の生態状況の把握に努めるとともに、出前講座を通して子供たちに川の大切さ、自然を愛する心を育んでいきたい。

また、組織の主たる構成員である勝山市漁業協同組合の組合員が減少していく中で、構成員の拡充を図り、多面的機能の発展に努めていきたい。

⑧ 日野川環境整備協議会（越前市）

活動組織名：日野川環境整備協議会

1. 地域の概要

日野川は一級河川九頭竜川の支流で、流路延長は 71.5km の県管理河川である。福井市、鯖江市、越前市、南越前町で、日野川漁業協同組合の漁場となっている。主要な魚種はアユ、ヤマメ、イワナ等であるが、中でもアユが最も重要な魚種となっており、漁協はアユ中間育成施設を設置し、放流用アユ稚魚の生産・放流を行っている。漁協では、年間を通して遊漁証を販売して釣り人を受け入れるとともに、環境の整備を進めている。



2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 26 日 (活動 9 年目)

(2) 構成員の数と形態

構成員 361 名

(内訳：漁業者 119 名、漁業者以外 242 名)

(3) 活動延べ人数

平成 25 年度 209 人

平成 26 年度 594 人

平成 27 年度 667 人

平成 28 年度 456 人

平成 29 年度 445 人

平成 30 年度 436 人
令和元年度 498 人
令和 2 年度 393 人
令和 3 年度 342 人
令和 4 年度 274 人

(4) 対象地域での保全活動歴

日野川環境整備協議会では、引き続き環境保全に大きな影響を及ぼす内水面の生態系の維持・保全・改善（草刈りや清掃活動）の活動を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲

活動場所



4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

日野川環境整備協議会は、平成 25 年 7 月 26 日に設立し、活動を続けてきた。近年、日野川の利用者数の減少や温暖化の影響による豪雨等により、河川敷の草木の繁殖や流木ごみ等の増加が進んできたことから、活動 10 年目となる令和 4 年度も地域住民と協働して草刈りと清掃を実施した。

河川に生茂っていた雑木、雑草をとりのぞく環境整備を進めた結果、野生動物（猪、熊など）の出没が減少し、地域住民からも喜ばれている。

活動実施後は、流域内の生物や利用者数の増加も期待されるため、引き続き環境整備活動を継続していく。

5. 今年度の保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備 考
R4. 4. 14	モニタリング	生態系の調査	12	鯖江市石田橋下流左岸
R4. 5. 29	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	143	
R4. 7. 17	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	84	
R4. 9. 8	モニタリング	鮎魚影調査	14	定点調査（10 地点）
R4. 9. 16	環境整備活動	流木等の撤去	10	少人数で実施
R4. 9. 29	環境整備活動	流木等の撤去	11	少人数で実施

(2) 活動内容写真

R4. 4. 12 モニタリング



R4. 5. 29 河川清掃活動



R4. 7. 17 河川清掃活動



R4. 9. 8 モニタリング



R4. 9. 16 河川清掃活動



R4. 9. 29 河川清掃活動



6. 活動の成果と今後の課題

令和4年度は、8月4日、5日に降った大雨の影響により、8月に実施を予定していた3回目の河川清掃活動を実施せず、代わりに9月に2度、少人数で流木等の撤去を行った。

また、流域住民や水産関係団体に日野川の河川環境整備についての理解を深めてもらい、関係者らが自ら環境整備を行っていくような仕組みづくりを進めるために予定していた「環境セミナー」についても、漁協が大雨被害への対応に追われたことから、今年度は開催を見送ることとなった。

9月初旬に実施する、定点10箇所でのアユ友釣りによるモニタリングについては、大雨による水の濁りが消えない中で実施したものの、どの地点でも釣果はなく、大雨による被害が水産資源にも大きな影響を与えたことが分かった。

令和5年度は減少した資源量を回復するため、漁協では例年より多くのアユの放流を行うとしている。本協議会では、引き続き草刈り等の活動を続け、水産資源が棲みよい環境の維持整備に努めたい。

⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）

活動組織名：敦賀河川を守る会

1. 漁業の概要

敦賀河川を守る会の主な構成員は、敦賀河川漁業協同組合に所属している。敦賀河川漁業協同組合の主な漁獲対象魚種はアユとヤマメ等の溪流魚で、笙の川・黒河川・木の芽川の3河川に年間700人前後の遊漁者が県内外から釣りに来る。組合は、令和4年度はアユを1,100kg、ヤマメ・イワナ等100kgを放流するとともに、簡易魚道の設置や産卵場の保護に努め、天然資源の増殖に向けた活動を行っている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成25年7月31日 活動9年目

(2) 構成員の数と形態

構成員 20名

(内訳：漁業者13名、漁業者以外7名)



(3) 活動延べ人数

令和4年度 112人（令和5.3.1現在）

(4) 対象地域での保全活動歴

敦賀河川漁業協同組合では、河川清掃を以前から継続して実施するとともに魚類資源の増殖活動を行ってきた。

3. 活動の対象範囲

活動場所



- 河川清掃箇所（5か所・計8ha）
- 出前教室（中郷小学校・南小学校校）
- 魚観察会（笠の川）
- 川床掘り起し（笠の川）

4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

河川を利用する人が減少したために、河川敷の草木が増殖し、ごみの不法投棄も増加してきたので、組合では定期的に清掃活動を実施してきた。

しかし、河川利用者が増加しない限り、河川環境の悪化が継続することが懸念される。

そのため『水産多面的機能発揮対策事業』により①河川清掃、②小学校出前教室、③魚観察会とふれあい体験、④川床掘り起しと産卵場整備を実施することで、河川環境整備、小学生への教育と啓発を図ることとした。

【令和4年度の活動】

本年度は、①河川清掃活動とモニタリング（清掃後の状況・水生生物）、④川床掘り起しと産卵場整備を実施した。

②小学校出前教室と③魚観察会とふれあい体験は今年度も残念ながら中止となった。

(1) 河川清掃活動とモニタリング

令和4年6月10日に衣掛橋下流地区(1.0ha)、6月13日に道口・衣掛橋上流地区(0.7ha)、6月22日に奥野橋地区(0.1ha)、6月26日に愛發公民館前地区(3.2ha)、7月17日に鳩原地区(3.0ha)の草刈りと清掃活動を実施した。

また、草刈りを実施した5か所について、7月から12月にかけて各月1回のモニタリング調査を実施した。

河川敷清掃活動



活動準備



活動日時等の記録



草刈り活動前の状況



草刈りと清掃活動状況

モニタリング活動（日常モニタリング・清掃後の変化・7月から12月まで月一回）



集合写真



活動日時等の記録



清掃1か月後



清掃5か月後

モニタリング活動（定期モニタリング・水生物調査・年二回）

令和4年5月10日と11月17日に、草刈りを行った5地区で、水生生物の採集調査を実施した。

調査には、口径25cm×25cm 目合い0.5mmのサーバーネットを用い、1地区で2か所の採集を行い、採集物は50%アルコールで保存した後に実体顕微鏡で分類した。

各地点共に、カゲロウ類の幼虫やトビケラ類の幼虫が確認でき、きれいな水質であることが示された。



調査前の集合写真



活動日時等の記録



採集状況



サンプルの収容



採集サンプルの同定



水生昆虫類



カゲロウ類の幼虫



トビケラ類の幼虫

(2) 放流体験と学校出前教室

学校側と協議したが、多くの児童の参加となることから、新型コロナウィルス感染状況を考慮して本年度は実施を見送った。

(3) 魚観察会とふれあい体験

屋外での活動ではあるが、例年多くの子供が集まること、活動場所が広くないことから、新型コロナウィルス感染状防止のために本年度は実施を見送った。

(4) 川床掘り起しと産卵場整備

令和4年11月3日に産卵場の整地作業を実施した。

本年度は木の芽川と笙の川の合流点から三島橋までの産卵場では河川工事のために重機での掘り起こしが出来ず、三島頭首工上流部の産卵場で手掘りによる掘り起こしとなった。

産卵場整備



産卵場の改良作業（手掘り）

川床掘り起し

昨年度は2月に実施したが大雪によって重機の搬入が困難であったことから、本年度は令和4年12月19日から12月24日にかけて、川床の掘り起しを計3500mの区間で実施し、魚類の生息に適した浮石状態の川床への改良を実施した。

8月の豪雨で大量の土砂が流入しており、掘り起こしの効果は大きかったと考える



活動日時等の記録



川床の掘り起し作業



川床掘り起こし後の状況

5. 昨年度までの課題

川床が浮石状態の良好な環境だったのものが、近年では砂の堆積により石が埋没してしまい、川床が固くなるとともに水生昆虫の生息にも支障をきたし餌環境が悪くなっている。

重機による河川改良は作業しても一年で元に戻ってしまうため抜本的解決策の研究が必要である。

魚の遡上を助けるために設置された魚道も老朽化や魚道の入り口に砂が堆積したりして遡上が困難な魚道が多くなっており、改善が必要であるが管理者との協議が順調に進まないことが多く、予算の問題も加わって、解決に至らないものが大部分である。

また、ここ数年に亘って天然遡上するアユの大幅な減少が継続しており、アユ資源の将来が危惧されているため、原因の究明と解決策についての研究開発が望まれる。

6. 今年度の活動の実施状況

令和4年度の活動実施状況

活動日	活動区分	活動の内容	参加人数	備考
R4. 5. 5	年間活動計画	計画・打ち合わせ	7	
R4. 5. 10	生物モニタリング	水生生物調査	5	5か所
R4. 6. 10	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	10	衣掛橋下流
R4. 6. 13	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	10	衣掛橋上流
R4. 6. 22	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	7	奥野橋
R4. 6. 26	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	7	愛発公民館前
R4. 7. 17	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	9	鳩原
R4. 7. 29	第1回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R4. 8. 26	第2回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R4. 9. 30	第3回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R4. 10. 28	第4回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R4. 11. 3	産卵場整備	川床掘り起しと整地	10	笙の川
R4. 11. 15	第5回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R4. 11. 17	生物モニタリング	水生生物調査	5	5か所
R4. 12. 10	第6回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3	清掃した5か所
R4. 12. 19	川床掘り起し	生息環境改良	6	奥野橋下流
R4. 12. 20	川床掘り起し	生息環境改良	6	愛発公民館前
R4. 12. 21	川床掘り起し	生息環境改良	6	道口頭首～JR 鉄橋
R4. 12. 22	川床掘り起し	生息環境改良	6	JR 鉄橋～堂橋
R4. 12. 23	川床掘り起し	生息環境改良	6	堂橋～野神頭首工
R4. 12. 24	川床掘り起し	生息環境改良	6	野神頭首～合流点
参加人数合計 112名				

7. 今後の課題や計画

今年度も、コロナウィルスの感染防止のために、子供たちを対象とした活動（放流体験、出前教室、ふれあい体験等）を中止せざるを得なかった。

体験の代用として図鑑等の教材を配布し教諭への説明を行ったが、子供たちへの直接の説明が望まれる。

出前教室について、他の学校からも要望があるので追加する必要もあるが、学校数が増加すると日程調整が困難となる事が課題である。

河川環境の改善に向けて、河川環境の改善や魚道の改良が必要であり管理者との継続的な協議が必要である。

⑩ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）

活動組織名：魚達の住みよい川・湖づくりの会

1. 漁業の概要

本会の主な構成員は、鳥浜漁業協同組合をはじめ、地元の鳥浜区の団体などが所属している。同漁業協同組合では、三方湖において、コイやフナなどを主に漁獲しており、その漁獲方法としては、たたき網漁や柴づけ漁など伝統漁法を継承している。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

(2) 構成員の数と形態

構成員 56 名

(内訳：漁業者 27 名、漁業者以外 29 名)

(3) 活動延べ人数

令和4年度 69人（令和4年2月28日現在）

(4) 対象地域での保全活動歴

今年度もヒシの繁茂が多かったが、台風と大風により大量のヒシの残骸や流木やヨシ根が湖岸に流れ込み回収に手間取った。また、漁具の流失も多かった。
回収のできない個所もあり、取り残しによる水質の悪化が懸念される。

3. 保全活動の対象範囲

活動場所



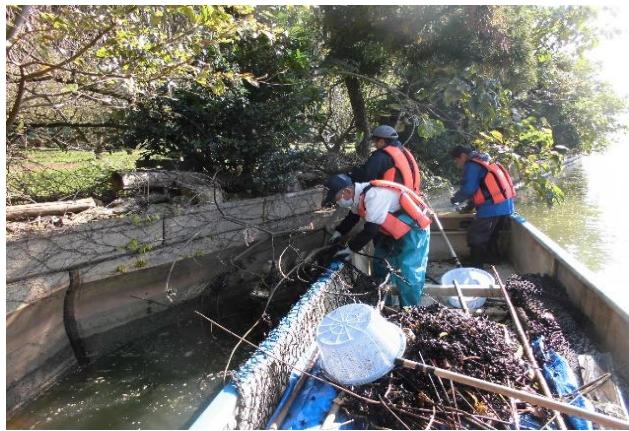
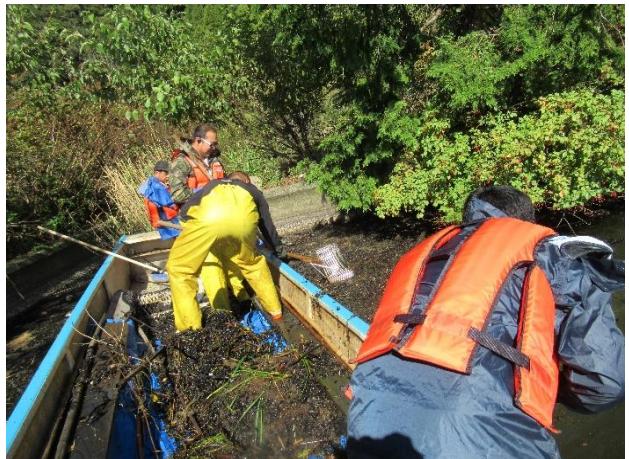
4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

大量のヒシが繁殖し水中酸素濃度が低くなり、大量に浮上した実が腐敗することで悪臭の原因となっている。また、台風や集中豪雨による急な川の増水で流木やゴミが魚類の生息に大きな悪影響が考えられる。そのため三方湖の清掃により環境保全を図っている。

5. 今年度の活動の実施状況

本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加人数	使用船隻	備考
R4. 9. 17	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	10人	2隻	
R4. 9. 25	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	8人	2隻	
R4. 10. 10	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	9人	2隻	
R4. 10. 26	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	11人	2隻	
R4. 11. 3	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	7人	2隻	
R4. 11. 8	保全活動	湖岸漂着物の除去 湖上周辺清掃	10人	2隻	
R4. 11. 18	保全活動	湖岸漂着物の分別 片付け作業	4人	0隻	
R4. 12. 3	保全活動	モニタリング	4人	4隻	
R5. 1. 9	保全活動	モニタリング	2人	2隻	
R5. 1. 25	保全活動	モニタリング	2人	2隻	
R5. 1. 31	保全活動	モニタリング	2人	2隻	



6. 今後の課題や計画

今年度のようにヒシが大量に繁茂すると、大量の刈り残しがありヒシの刈り取り作業が今後の大変な課題となる。

今後も魚達が住みよい環境となるようゴミのない美しい湖を目指し、継続した保全活動に取り組んでいきたい。

⑪ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）

活動組織名：小浜市海のゆりかごを育む会

1. 漁業の概要

約 10 年前に漁獲量の減少が止まり、低调に推移している中で、魚価の低迷が進み、漁業経営の環境は厳しい状況となっている。また、推計であるが小浜湾内の藻場は約 600ha であったが、近年では 156ha にまで減少した。また、カキ養殖が盛んな地域だが、近年は不作の状況が続いている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 29 年 3 月 1 日発足 活動 6 年目

※平成 25 年発足の海のゆりかごを育む会と平成 15 年発足の小浜市豊かな海の森を育てる会が合併し、当会を発足した。

(2) 構成員の数と形態

構成員 401 名（内漁業者 274 名）

(3) 活動延べ人数

令和 4 年度 約 300 人

(4) 対象地域での保全活動歴

甲ヶ崎・仏谷においてアマモ場の保全活動、矢代・西津・仏谷においてウニの密度管理、全域において藻場増殖礁の設置と海岸漂着物の回収を行った。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置（藻場保全：9.69ha 海岸漂着物：4.7ha）



(2) 対象資源の現状課題

推計であるが小浜湾内の藻場は約 600ha から、近年では 156ha にまで減少している。加えて、台風や冬季の波浪による、海岸漂着物が様々な活動の妨げとなっている。

4. 昨年度までの保全活動の実施状況及び効果

(1) 藻場の保全

アマモ場保全

保全方法を見直すため、いくつかの実験的試みを行った。

9月～11月に、栽培漁業センター屋外水槽(10m×5m)で育てていた成長株約 3,000 本を海に移植した。また、11月～12月には、紙粘土方式と牡蠣殻マット方式での播種を行なった。紙粘土方式は水槽段階でうまく発芽しなかったので、移植していない。

藻場増殖礁の設置

小型の藻場増殖礁を 10 か所において実施。設置場所については、技術サポーターによる調査・適地選定を行なったうえで設定している。

ウニの密度管理

矢代地区においては、ウニによる磯焼け被害が見受けられていることから被害対策としてウニの駆除を行なった。悪天候による中止が続き、2 回のみの実施となつた。

(2) 海岸漂着物の回収

各集落に回収用フレコンバッグを配布し、集落単位での回収活動を行なっている。フレコンバッグを配布しておくことで、一斉清掃だけでなく、日常的な回収作業も行なっている。また、時化による漂着物についても可能な範囲で回収を行なった。

障害者就労支援施設と委託契約を行い、漂着物回収分別の試験事業を実施した。また、福井県海浜自然センター主催の漂着物調査に協力した。

(3) 教育・学習活動

漂着ごみについては、小学生、教員、マリンスポーツ愛好家、ライオンズクラブと、様々な層の方々から依頼を受け、講座を行なつた。

藻場については、野外学習前の小学校から依頼を受け、海の豊かさと藻場、SDGs に関する出前講座を行なつた。

5. 今年度の保全活動の実施状況及び効果

(1) 藻場の保全

アマモ場保全

福井県立大学にアマモ場・藻場の研究者が赴任され、全面的にご協力をいただけたことになった。今後の保全活動を見直すべく、今年度はモニタリングや調査を強化し、来年度以降の新たな保全計画を立てている。

アマモの播種に関しては、昨年度から始めたマット方式で播種を行なつた。

藻場増殖礁の設置

小型の藻場増殖礁を 19 基 3 か所（阿納 7 基、志積 5 基、田鳥 7 基）において実施。

設置場所については、県立大学によるサポートと漁業者の知見で設定している。

ウニの密度管理

矢代地区において、3回ウニの駆除を実施した。昨年度は2回しか実施できなかつたため、手を入れることができなかつた場所では磯焼けの進行が見られた。

西津地区では、8月に1回実施した。仏谷地区では、7月に5回実施した。

(2) 海岸漂着物の回収

各集落に回収用フレコンバッグを配布し、集落単位での回収活動を行っている。フレコンバッグを配布しておくことで、一斉清掃だけでなく、日常的な回収作業も行っている。また、時化による漂着物についても可能な範囲で回収を行つた。

障害者就労支援施設と委託契約を行い、漂着物処理事業を実施した。また、福井県海浜自然センター主催の漂着物調査に協力した。

(3) 教育・学習活動

漂着ごみについては、親子・一般対象の講座や高校生対象の講座を行つた。

藻場については、小学生対象の講座と海浜センターとの共催で親子・一般対象の講座を行なつた。

R4 年度活動実施状況（2月末まで）

実施時期	活動項目	活動内容	人数	備考
R4. 6	藻場の保全	アマモモニタリング	18	仏谷 3回
R4. 7	藻場の保全	藻場モニタリング	9	矢代
R4. 7	藻場の保全	ウニ駆除	21	矢代 3回
R4. 7	藻場の保全	ウニ駆除	5	仏谷 5回
R4. 8	藻場の保全	ウニ駆除	2	西津 1回
R4. 11	藻場の保全	アマモ播種作業	22	
R5. 1	海岸漂着物	漂着物処理	10	縁 4回
R5. 1	海岸漂着物	漂着物学習	1 参加者 36	若狭高校
R5. 2	海岸漂着物	漂着物学習	1 参加者 36	若狭高校
R5. 2	藻場の保全	藻場学習	1 参加者 12	内外海小学校
R5. 2	海岸漂着物	調査協力	5	田島 2回
R5. 2	藻場の保全	母藻の設置	10	19基 3箇所
R5. 2	藻場の保全	藻場学習	2 参加者 15	仏谷

6. 活動写真（令和4年度）

(1) 藻場保全



アマモ場について、新たに大学教授が加わり、広範囲で丁寧なモニタリング・調査を実施



マット方式によるアマモ種子の播種



潜水によるウニ駆除

(2) 海岸漂着物の回収



海ごみ調査への協力

障害者施設による海ごみ処理

(3) 教育・学習活動



漂着物学習（親子・一般）



漂着物学習（若狭高校）



藻場学習（内外海小学 5 年生）



藻場学習（親子・一般）



7. 今後の課題や計画

アマモ場に関しては、研究者の協力により、今後の活動の方向性が明確になった。来年度以降、大学と共同研究の形を取り、現存している天然藻場の保全と衰退している海域での播種による回復事業を行っていく計画である。また、牡蠣殻を活用した底質改善の実験も行う計画である。

ウニの密度管理に関しては、矢代においては実施回数が多く取れないので、一回あたりの参加者数が増えるよう、声をかけていきたい。

漂着物の処理については、引き続き障害者施設に委託し、効率的な方法を探っていきたい。

教育・学習活動については、コロナ自粛も明けるので、多くの方に参加していただけるよう、考えていきたい。

⑫ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）

活動組織名：南川ラインレスキュー隊

1. 背景

南川は2級河川で天然の鮎も遡上する豊かな川だが、最近は山から流れ出る土砂等が鮎の成育にも影響を及ぼしている。また草や木が生い茂り、景観の悪化から危険な場所という認識やゴミの不法投棄に繋がっているのが現状である。

現在、河川組合員等の漁業者も高齢となっており、良好な河川を次世代につなぐために、川を守りたいという機運を盛り上げることが急務である。

現代の子ども達は南川で遊んだ経験がなく、このままでは良好な川を次代につなぐ者がいなくなるのではという危機感から過去に遊んだ記憶のある有志が集まり美化活動と教育活動（体験）を開始。

2. 活動組織の運営

（1）活動組織の発足年月日

平成29年2月7日発足 活動6年目

（2）構成員の数と形態

構成員 約100名（漁業者以外約85名）

（3）活動延べ人数

令和4年度 約675人（R4.3.3現在）

（4）対象地域で、水産多面的事業の実施

- ・川のごみ清掃
- ・川の草刈り
- ・ヨシ帯の保全活動
- ・教育活動
- ・水質調査
- ・モニタリング

3. 活動の実施状況

（1）河川のゴミ清掃

年間2回実施。コロナ感染拡大等で活動がしにくい状況もあり人数を制限して実施。

ゴミ回収量約200ℓ。活動エリアにおいて例年の作業実績により不法投棄のごみの量が減少しつつある。

（2）川の草刈り

内水面保全のためのヨシ刈りや河川敷および土手斜面の草刈りを実施。河川の草が無くなっこことで、少しずつ不法投棄も減少してきている。環境整備により良好な景観が確保され眺める川から身近な行きたくなる河川へ近づいてきたと感じられる。

（3）ヨシ帯の保全活動について

ワンド付近のヨシ帯の調整を行った。水質浄化のための保全と場の安全確保のためのヨシ除去を実施。

(4) 教育活動

南川流域にある今富小学校において学年を固定して座学と現地学習を交え年間を通して総合的に実施して 6 年目。草刈りやゴミ拾い、水辺の安全講習、水質調査、生き物調査や漁師体験、鮎の実食体験、また今年は 3 校でサクラマスの発眼卵飼育から放流までを専門家の協力を得て深めている。

その年の学習の方向性などを踏まえ、児童の学びの意欲を引き出した取り組みとなっていることで自発的な行動に結び付いている。成果として南川の環境や生息する生物生態など学んだことを伝える紙芝居が出来上がり後輩へ読み聞かせが行われている。

親子を対象にした投網による河川生物の実態調査や高校生と大学生対象の浮泥除去等を予定したが、雨天による増水のため断念した。

(5) 水質調査

水温や水質、透明度の調査、試薬を使った COD 等の測定を実施。計測方法を大学の先生の協力を得て学び、数値的に飲み水にも値する良好な川であると確認できた。

(6) モニタリングについて

水生生物による環境指標で南川の状態は良好であることが確認できた。

生き物の特性を知ることで河川と海のつながりを実感することができた。

ドローン撮影による活動記録やサケの産卵床調査を実施した。

令和 4 年度の活動実施状況

実施日	人数	場 所	活動項目	イ ベ ン ト	内 容
5 月 10 日	61	南川左岸	内水面 ヨシ帯	草刈り ゴミ拾い 水質調査	草刈り、ゴミ拾い、外来植物除去、専門家の指導のもと水質調査を実施【今富小学校も参加】
6 月 29 日	59	南川左岸	教育活動	安全講習	専門家から南川で体験する際の安全管理講習 【今富小学校】
7 月 1 日	58	今富小学校	教育活動	生き物事前学習	専門家による川の成り立ち、水生生物座学 【今富小学校】
7 月 6 日	61	南川左岸	内水面	生き物調査 モニタリング	水生生物を採集し、モニタリング【今富小学校も参加】
7 月 31 日	6	南川右岸	内水面 ヨシ帯	草刈り、 ゴミ拾い 生き物調査	南川右岸の草刈り、ワンドヨシ帯の整備、生き物調査、ゴミ拾いを実施
8 月 14 日	2	南川右岸	内水面 ヨシ帯	モニタリング	ドローン撮影
9 月 27 日	62	南川左岸	教育活動 内水面	鮎の観察 ゴミ拾い	川漁師に学ぶ漁具と使い方、鮎ヒレの観察と実食。環境美化 【今富小学校】

10月9日	0	南川右岸	内水面 ヨシ帯 教育活動	草刈り、 ゴミ拾い 河床耕うん	南川右岸の草刈り、ゴミ拾い、河床整備 【若狭高校・福井県立大学】 ※天候不良のため中止
10月30日	8	南川右岸	内水面 ヨシ帯	草刈り、 ゴミ拾い	南川右岸の草刈り、ゴミ拾いを実施 鮎の産卵調査
10月30日	2	南川右岸	内水面 ヨシ帯	モニタリング	ドローン撮影
11月1日	58	今富小学校	教育活動 内水面	鮎の卵の観察 鮎の人工授精	鮎の人工授精のお話と鮎の卵の観察 【今富小学校】
11月13日	2	南川右岸	内水面	サケの産卵床調査	ドローン撮影にてサケの産卵床調査
12月8日	114	口名田小学校 雲浜小学校 今富小学校 名田庄小学校	教育活動 内水面座学	発眼卵準備、飼育観察開始	サクラマス復活プロジェクト座学 【口名田・雲浜・今富・名田庄小学校】
3月8日	114	南川支流	教育活動 内水面	サクラマス観察 魚道見学、放流	サクラマス稚魚放流と石積み魚道見学 【口名田・雲浜・今富・名田庄小学校】
3月17日	61	今富小学校	教育活動 内水面座学	学習発表、感謝の会	南川学習発表会:ラインレスキュー隊・講師招待 紙芝居披露 【今富小学校】
3月12日	5	南川右岸	内水面 ヨシ帯	草刈り、 ゴミ拾い	南川右岸の草刈り、ゴミ拾いを実施
3月12日	2	南川右岸	内水面 ヨシ帯	モニタリング	ドローン撮影

活動の状況

- ・草刈り、ごみ拾い



・モニタリング（生き物調査）



・小学校教育活動（川の安全学習）



4. 効果と課題

清掃活動およびヨシ帯保全については、環境の整備が進み、人が集まる環境に近づいてきている。

教育活動については、一年を通して総合的に河川をフィールドに取り組んできたことにより、子ども達が自主的にゴミ拾いをする姿が見られるなど環境保全に対し意識の醸成が生まれていることを感じる。生物調査においても継続して安定の状態が見られている。

児童の積極的な活動は保護者への啓発にもつながり、学習に取り組んできた児童が後輩へ紙芝居などを通して南川の環境を守っていくことの大切さを伝えるなど活動が受け継がれている。

南川をフィールドに環境や増殖についても学ぶ機会が広がっており、河川環境の保持につながる活動に繋がっている。今後も河川組合との連携を密にして、共に南川を慈しむ人材を育てていきたい。

新型コロナウィルス感染が治まらない中、天候の影響で企画しても実施できないこともあり苦慮した。清掃活動については、行事等と重なり天候により実施できない状況など予定の回数を実施することができなかった。

メンバーの減少や子ども達が南川を通して、未来へ良好な南川受け継いでいく気持ちを醸成できるよう、教育活動をコーディネートする仕組みづくりと人材育成が課題である。

⑬ おおい町大島地区の海を守る会(おおい町)

活動組織名：おおい町大島地区の海を守る会

1. 漁業の概要

大島地区は漁業が盛んな地域であり、種苗の放流、ウニ駆除など資源保全・確保に努めているが、近年のサザエ・アワビの漁獲量は低下傾向にあり、漁業経営は厳しい状況となっている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和4年2月25日

(2) 構成員の数と形態

構成員：約72名（内訳 漁業者60名 漁協12名）

(3) 活動延べ人数

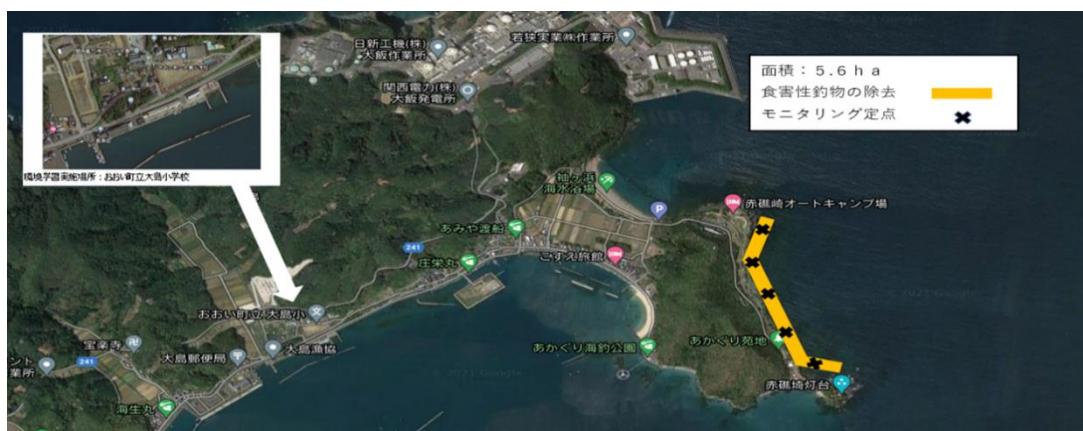
令和4年度 35名（令和5年1月31日時点）

(4) 対象地域での保全活動歴

大島長浦周辺において、ムラサキウニの密度管理や駆除、大島地域の小学生に環境学習を実施した。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置(長浦 藻場保全面積5.6ha) 環境学習(大島小学校)



(1) 対象資源の現状・課題

近年、大島長浦周辺では目視で確認できるほどのムラサキウニの大量繁殖によって、藻場が荒らされておりサザエ・アワビの餌場が減少している。それに伴い漁獲量も減少し、今後の資源確保が課題となっている。

4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R4. 5. 31	モニタリング	藻場状況の確認	11名	大島長浦
R4. 7. 12	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	31名	大島長浦
R4. 7. 15	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	30名	大島長浦
R4. 7. 26	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	15名	大島長浦
R4. 9. 17	保全活動	藻場環境学習準備	5名	大島漁協
R4. 10. 5	保全活動	藻場環境学習	5名	大島小学校

(2) 活動内容写真

「モニタリング」

(海藻等のモニタリング)



「藻場の保全」有害生物の除去



(活動参加者)





(教育学習準備)



(教育学習準備)



(教育学習)



(3) 効果

「水産多面的機能發揮対策」活動により、藻場にとって有害な黒ウニの除去を行い、より一層藻場の環境が改善されると思われる。また、漁師ひとりひとりが「自分たちの海」を守りたい、守っていかなくてはならないという使命感、責任感を持てたことが今回の活動において大きな収穫だと感じた。そうした中で、活動が継続していくことでより効果が期待され、後世の漁師たちに豊かな海で漁業を行ってもらいたい。

5. 今後の課題や計画

水産多面的機能発揮対策を行っていくことで藻場の重要性を説き、自主的に藻場の保全に努めることを期待したい。現状、黒ウニを駆除するだけに留まっているので、今後利活用できるよう努めていきたい。また、小学生など地域の子供たちに、自分たちが住んでいる海の豊かさを見て触って学んでもらえる機会を増やしていくことで将来大島の海は守られていくことも期待できる。漁師はもとより住民ひとりひとりが同じ意識を持って豊かな地域を作りていきたい。

⑬ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

活動組織名：若狭高浜ブループロジェクト

1. 漁業の概要

若狭高浜ブループロジェクトの主な構成員は、若狭高浜漁業協同組合に所属しており、様々な漁業が盛んである中、サザエ・アワビ・アカガイの種苗の放流等も行っており、年間を通じて藻場の恩恵を受けている。

2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和2年2月10日

(2) 構成員の数と形態

構成員：165名（内訳 漁業者：161名、漁協：4名）

(3) 活動延べ人数

○令和2年度 53人（令和3年1月31日時点）

○令和3年度 46人（令和4年3月3日時点）

○令和4年度 27人（令和4年3月7日時点）

(4) 対象地域での保全活動歴

高浜町では、これまで「若狭高浜ブループロジェクト」が主体となって、保全活動の計画づくりやモニタリング及び、藻場の保全活動として、有害生物の除去（ムラサキウニの駆除）や母藻（貝藻くん）の設置活動に取り組み、さらに、今年度より廃棄物（ムラサキウニ）の利活用方法の検討・試作を実施してきた。

3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動位置（和田地区釈迦浜周辺等藻場面積：5.75ha）

● 活動範囲
○ モニタリング位置



(2) 対象資源の現状・課題

近年、藻場の減少が深刻化しており、その原因となっているのは十数年前より大量繁殖したムラサキウニによる食害である。本年度活動位置の和田港釀込浜周辺等は、目視でも確認できるほどのムラサキウニに埋め尽くされている。十年前にはウニ漁も行っていたが、現在は行っておらず、ムラサキウニは増加の一方であり、サザエ・アワビ等のえさ場となるホンダワラ類を中心に減少しているため、次世代漁業者に向けた水産資源の維持・確保が課題となっている。

4. 保全活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R4. 6. 21	モニタリング	藻場状況の確認	4名	和田地区葉積島・和田港釀込浜周辺
R4. 7. 26	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	5名	和田地区和田港釀込浜周辺
R4. 11. 3	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	4名	和田地区和田港釀込浜周辺
R4. 12. 5	廃棄物の利活用	廃棄物の利活用 (試作)	—	高浜地区
R5. 1. 13	廃棄物の利活用	廃棄物の利活用 (試作)	—	高浜地区
R5. 3. 3	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	7名	貝藻くん設置準備
R5. 3. 6	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	72名	貝藻くん設置作業

延活動人員 27名

活動実施は令和5年3月6日迄

(2) 活動内容写真

「藻場の保全」海藻等の定点モニタリング



「藻場の保全」有害生物の除去



「藻場の保全」活動参加者



「藻場の保全」母藻の設置（納品）



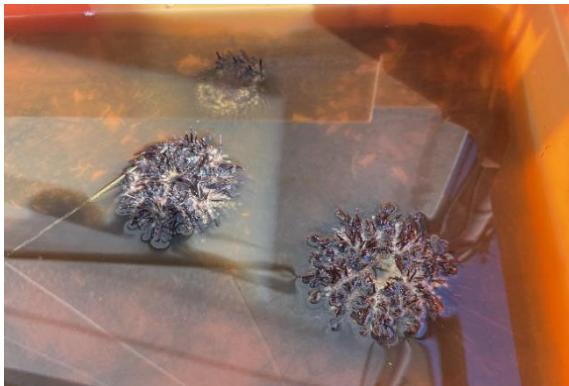
「藻場の保全」母藻の設置（設置準備）



「藻場の保全」母藻の設置（設置作業）



「廃棄物の利活用」（染め作業）



（3）効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場に有害なウニの除去を行った結果、目に見える範囲で藻場の環境は活動前と比較すると僅かだが改善傾向にあると思われる。また、ウニを除去するだけではなく、利活用をすることで有害生物とされていたムラサキウニへの意識を変えることができた。今後も継続していくことでより効果が期待される。

5. 今後の課題や計画

十数年前には豊かだった藻場は水産資源を確保する上では必要不可欠であり、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、良漁場の回復に努めていきたい。また引き続き交流の場を広めていき、今後も様々な団体と連携しながら有害生物の利活用や体験学習も取り組み、綺麗な海を守り、海の恵みと一緒に豊かな地域を作っていきたい。